



於四編五編次第
 追ふて阿のり傳
 七の龍巻きと伝説の
 白き河に玉璣者乃
 松さふ振くまひ
 昔のちり葉も乃
 ちんと河のまゆを
 鳴く子細く撫くる
 志のあま

志のあま
 玉璣

聖女如月

河名類題後白集之篇

目錄

まゝ部

元朝	一	明のま	一	山代ま	一
四乃ま	一	二乃お	一	初曆	一
若姫子	二	羊男	二	おゆり	二
初子水	二	鏡竹	二	福茶	二
樗	二	急瀬	三	喰核	三
穂信	三	田代	三	小原系	三
教の子	三	巾着	三	守屋房	四
四方洋	四	玉福巻	四	大志系	四
ちの進	四	伝号	四	若衣初	四
馬ま初	四	弓始	四	強初	五
若初	五	初高	五	初買	五
初松	五	水祝	五	まま	五
七日	六	帳綴	六	妙聖	六
正月	六	ま色	六	ま山	六
佐保姫	六				

目録	去海 六	去門 六	去野 七
去陸 七	水菜 七	芋菜 七	
下麻 七	芥子 七	苣 七	
三葉芥 七	防風 八	撒菜 八	
百子 八	約子 八	馬刀 八	
長根 八	于菘 八	于大根 八	
長小根 九	于龍 九	青の 九	
氣尾 九	海雲 九	長布 九	
根 九	初葉 九	香下 九	
紫 十	社日 十	法忌 十	
貝書 十	苗代 十	糸梅 十	
忌待 十	芋芳 十	物脊 十	
大根 十	特芋 十	杉菜 十	
麻府 十	丹蒜 十	白子 十	
菘菜 十	龍 十	馬刀 十	
蛇出 十	龍 十	蕨 十	
級 十	龍 十		

初午 十三	新根 十三	涅槃 十三
仏の 十三	弥生 十三	竹焔 十三
去別 十三	去名 十三	交 十三
林摘 十三	山梨 十三	杏花 十三
子 十三	横柄 十三	石梅 十三
沈下 十三	葉採 十三	小米 十三
山吹 十三	母子 十三	梅子 十三
九輪 十三	五形 十三	芋梅 十三
梅花 十三	芥子 十三	呼子 十三
多帰 十三	白菜 十三	烏菜 十三
麦 十三	田 十三	柏 十三
名 十三	上 十三	安 十三
子 十三	人 十三	山 十三
子 十三	蓮 十三	吹 十三
子 十三	新 十三	重 十三
首 十三	夏 十三	和 十三

目錄

明易	夏秋	一	大夏	一
相安	廣厚	二	海陸	二
夏人	清	二	著	二
一八	夏秋	二	夏秋	二
桑	桑	三	風車	三
夏	甘	三	澤	三
蘭	玉	三	慶	三
花	夏	四	相	四
棉	余	四	苦	四
白	推	五	子	五
丁	花	五	夏	五
葛	岩	五	夏	五
葛	木	六	夏	六
青	松	六	條	六
豆	散	六	子	六
山	大	七	蚕	七
椒	豆	七	子	七
根	海	七	子	七

青	收	八	飛	八
枝	雨	八	出	八
花	抽	八	臺	九
衣	輕	九	子	九
青	青	九	通	九
翠	年	十	條	十
白	孫	十	麥	十
青	冷	十	冷	十
于	于	十	絲	十
葵	系	十	花	十
生	落	十	仁	十
子	竹	十	子	十
夏	夏	十	夏	十
花	夏	十	夏	十
鏡	為	十	地	十
虎	五	十	胎	十
夏	東	十	限	十

目錄

墓系	十一	經書	十一	大字	十一
如法	十一	船火	十二	地產	十二
送人	十二	田園	十二	後記	十二
后出代	十二	海	十二	秋	十二
二月	十二	立待	十二	居待	十二
伏待	十二	亥中月	十二	八朔梅	十二
梅娘	十二	本摩	十二	浪書	十二
柘梅	十二	牡丹	十三	廣	十三
放符	十三	水引	十三	白粉	十三
石	十三	浮枝	十三	小雞子	十三
秋	十三	粉	十三	轉	十三
種	十三	引	十三	松	十三
田	十三	移	十三	移舟	十三
移	十三	移	十三	毛	十三
龜	十三	弱	十三	小	十三
月	十三	眉	十三	頰	十三
山	十三	雀	十三	五十	十三

菊	十六	夏	十六	朝	十六
採	十六	陀	十六	離	十六
子	十六	約	十七	放	十六
約	十七	約	十七	菊	十七
秋	十七	冬	十七	冬	十七
秋	十七	冬	十八	冬	十八
秋	十八	冬	十八	冬	十八
十	十八	冬	十八	冬	十八
我	十八	冬	十八	冬	十八
破	十九	冬	十九	冬	十九
梅	十九	冬	十九	冬	十九
之	十九	冬	十九	冬	十九
密	十九	冬	十九	冬	十九
推	十九	冬	十九	冬	十九
尾	十九	冬	十九	冬	十九
菊	十九	冬	十九	冬	十九

射綿 十一
九日 十一
西遊 十一

秋祭 十一
神送 十一

冬之部

小正月 一
初霜 一
初冰 一

冬之部 一
冬枯 一
冬表 一

冬之部 二
冬日 二
冬日和 二

冬之部 二
冬雨 二
冬川 二

冬之部 三
冬水 三
冬田 三

冬之部 三
冬山 三
山眠 三

北窓塞 四
巨燈 四
玉之川 四

埋火 四
あふり 四
火辨 四

懐胎 五
温石 五
岩窟 五

木葉 五
室暖掛 五
八子室 五

梅 五
冬の花 五
冬葉 五

梅 六
梅 六
梅 六

梅 六
梅 六
梅 六

梅 六
梅 六
梅 六

梅 七
梅 七
梅 七

燈 七
新 七
鈴鴨 七

沉色 七
夜長引 八
竹筒 八

然安 八
土猪俵 八
莖漬 八

貝燒 八
蕎麥酒 八
風吹 八

綿入 八
足袋 九
神旅 九

神宮 九
西取越 九
連巻 九

以命 九
十夜 九
孫忌 十

怪子 十
神追 十
冬等 十

冬等 十
冬佛 十
冬之部 十

接 十
雪車 十
雪宵 十

冬之部 十
鐘水 十
柱父 十

粥 十
別年 十
冬叫 十

力孝 十
冬等 十
被初 十

冬之部 十
冬等 十
甲子 十

冬之部 十
冬等 十
空也 十

冬之部 十
冬等 十
冬之部 十

冬之部 十
冬等 十
冬之部 十

冬之部 十
冬等 十
冬之部 十

冬之部 十
冬等 十
冬之部 十

洞室歌歌後白集之第冊

自注卷光林輯

春の部

え朝

え朝やとほつらうは山折安^{ラツ} 有ま
え朝の終えたりからと舟 式ま
え朝や四つまき一紙倉 冬丸
え朝の孫ふ列はぬ揚^子外
え朝や終りうま丸^子群 ま生

明乃ま

白葉の子えうはハのま 楊定
我居はうりまき子明のま 春測
え朝のつらまきとん^子乃山
梅原吳の終りもほく^子のま ま生

正代ま

日乃かハねのほく正代乃とる 手生白

子^{十五}の^{十五}松も^{十五}若くして^{十五}世代の^{十五}ま^{十五} 芝山
^{十五}渡り^{十五}川^{十五}も^{十五}松^{十五}や^{十五}世代の^{十五}ま^{十五} 礪山
^{十五}ま^{十五}乃^{十五}ま^{十五}も^{十五}い^{十五}ふ^{十五}日^{十五}の^{十五}ま^{十五}世代の^{十五}ま^{十五} 怪州
^{十五}田^{十五}の^{十五}ま^{十五}も^{十五}い^{十五}ふ^{十五}日^{十五}の^{十五}ま^{十五}世代の^{十五}ま^{十五} 岳陽

田のま

極^{十五}りて^{十五}松^{十五}も^{十五}若^{十五}くして^{十五}世代の^{十五}ま^{十五} 鼎左
^{十五}白^{十五}雲^{十五}の^{十五}ま^{十五}も^{十五}い^{十五}ふ^{十五}日^{十五}の^{十五}ま^{十五}世代の^{十五}ま^{十五} 巻札
^{十五}ま^{十五}乃^{十五}ま^{十五}も^{十五}い^{十五}ふ^{十五}日^{十五}の^{十五}ま^{十五}世代の^{十五}ま^{十五} 巻中
^{十五}ま^{十五}乃^{十五}ま^{十五}も^{十五}い^{十五}ふ^{十五}日^{十五}の^{十五}ま^{十五}世代の^{十五}ま^{十五} 巻外

こ乃松

ま^{十五}乃^{十五}ま^{十五}も^{十五}い^{十五}ふ^{十五}日^{十五}の^{十五}ま^{十五}世代の^{十五}ま^{十五} 松邑
^{十五}松^{十五}の^{十五}ま^{十五}も^{十五}い^{十五}ふ^{十五}日^{十五}の^{十五}ま^{十五}世代の^{十五}ま^{十五} 松邑
^{十五}松^{十五}の^{十五}ま^{十五}も^{十五}い^{十五}ふ^{十五}日^{十五}の^{十五}ま^{十五}世代の^{十五}ま^{十五} 松邑
^{十五}松^{十五}の^{十五}ま^{十五}も^{十五}い^{十五}ふ^{十五}日^{十五}の^{十五}ま^{十五}世代の^{十五}ま^{十五} 松邑

松層

清^{十五}く^{十五}か^{十五}た^{十五}や^{十五}よ^{十五}の^{十五}松^{十五}の^{十五}ま^{十五} 直来
^{十五}松^{十五}の^{十五}ま^{十五}も^{十五}い^{十五}ふ^{十五}日^{十五}の^{十五}ま^{十五}世代の^{十五}ま^{十五} 直来
^{十五}松^{十五}の^{十五}ま^{十五}も^{十五}い^{十五}ふ^{十五}日^{十五}の^{十五}ま^{十五}世代の^{十五}ま^{十五} 直来
^{十五}松^{十五}の^{十五}ま^{十五}も^{十五}い^{十五}ふ^{十五}日^{十五}の^{十五}ま^{十五}世代の^{十五}ま^{十五} 直来

遠^{十五}の^{十五}松^{十五}も^{十五}若^{十五}くして^{十五}世代の^{十五}ま^{十五} 光林

松隆子

世^{十五}乃^{十五}業^{十五}も^{十五}松^{十五}の^{十五}ま^{十五}も^{十五}い^{十五}ふ^{十五}日^{十五}の^{十五}ま^{十五}世代の^{十五}ま^{十五} 山崎
^{十五}月^{十五}の^{十五}松^{十五}の^{十五}ま^{十五}も^{十五}い^{十五}ふ^{十五}日^{十五}の^{十五}ま^{十五}世代の^{十五}ま^{十五} 山下
^{十五}松^{十五}の^{十五}ま^{十五}も^{十五}い^{十五}ふ^{十五}日^{十五}の^{十五}ま^{十五}世代の^{十五}ま^{十五} 山下
^{十五}松^{十五}の^{十五}ま^{十五}も^{十五}い^{十五}ふ^{十五}日^{十五}の^{十五}ま^{十五}世代の^{十五}ま^{十五} 山下

年男

ほ^{十五}の^{十五}い^{十五}と^{十五}大^{十五}の^{十五}松^{十五}の^{十五}ま^{十五}も^{十五}い^{十五}ふ^{十五}日^{十五}の^{十五}ま^{十五}世代の^{十五}ま^{十五} 山下
^{十五}松^{十五}の^{十五}ま^{十五}も^{十五}い^{十五}ふ^{十五}日^{十五}の^{十五}ま^{十五}世代の^{十五}ま^{十五} 山下
^{十五}松^{十五}の^{十五}ま^{十五}も^{十五}い^{十五}ふ^{十五}日^{十五}の^{十五}ま^{十五}世代の^{十五}ま^{十五} 山下
^{十五}松^{十五}の^{十五}ま^{十五}も^{十五}い^{十五}ふ^{十五}日^{十五}の^{十五}ま^{十五}世代の^{十五}ま^{十五} 山下

井の松

松^{十五}の^{十五}ま^{十五}も^{十五}い^{十五}ふ^{十五}日^{十五}の^{十五}ま^{十五}世代の^{十五}ま^{十五} 松水
^{十五}松^{十五}の^{十五}ま^{十五}も^{十五}い^{十五}ふ^{十五}日^{十五}の^{十五}ま^{十五}世代の^{十五}ま^{十五} 松水
^{十五}松^{十五}の^{十五}ま^{十五}も^{十五}い^{十五}ふ^{十五}日^{十五}の^{十五}ま^{十五}世代の^{十五}ま^{十五} 松水
^{十五}松^{十五}の^{十五}ま^{十五}も^{十五}い^{十五}ふ^{十五}日^{十五}の^{十五}ま^{十五}世代の^{十五}ま^{十五} 松水

初水

九のいし星のまろや初水サカヒ 草丸
とつとつ不折の海や初水 風光

笠竹

根も分ちやうま我くや笠竹 木容
理成り或くは崎つ竹 梅居
海川は初水や竹竹 光林

福茶

後下のまろ中かおある一福茶 松竹
後下茶や吉ものこへ押さうて 雲白
うつや福風ゆき 麻袴 梅室
後下まろや笠竹をえさる 窮の白 与池
後下のまろかさとやう茶生下 舟外

楪

ゆつと茶や福茶世のむろ茶 似舟
楪やニ茶方々もこのまろ 菊
ゆつとこの二枝てまろや茶日士他云
ふか

掛網

魚網や一口つちの替わろり 梅通
うけ網やまろのぬれ竹十六 梅枝
魚網の眼よまろまのまろ十六 与太
うけ網や朝三日月と替の先 光林

喰積

喰つとや二ツ積十六 かんよう 林十六
喰つとまろと竹神十六 梅居
喰つとまろと竹もまろぬれ竹中 梅室
喰つとまろ積とあり四日十六 弄化
喰つとまろ一と積一朝の客 粗文

積信

積信やまろまろしりれおの教 善三
積十六まろと積十六まろもまろ梅居
積信もまろは海士の積が 光林

田代

田代やいふはつとまろ 善三

田代やまのつらとやまのち 大梅
田代の若きつれぬ丁なるれ 菅原
田代や二つやまの川 辰うら 雪簀

小石原

それくの姿さきさき 小石原 有歩
世の中を歩み引けて小石原 柳下
尾原のこれも今もさきさき 光林

救乃子

救乃子やその昔まじりたる能 周徳
救乃子や津志の山さきから 隆教
救乃子や山原のあきねの心 清水
救乃子やまてやまの昔まじり 光林

あし者

あし者と昔のまじりあし者 素路
町原のあし者 柳下 柳下
まじりたるあし者 柳下
柳下 柳下

冨本之房

冨本之房のこころを分れてさきさき 有歩
冨本之房のこころを分れてさきさき 有歩
四方原

四方原

まて中をさきさきしや四方原 藤六
ねそかまをさきさきしや四方原 一良
四方原のまてさきさきしや四方原 藤六

玉栴葵

玉栴葵のこころを分れてさきさき 柳下
玉栴葵のこころを分れてさきさき 柳下
玉栴葵のこころを分れてさきさき 柳下

大石原

大石原のこころを分れてさきさき 月流
大石原のこころを分れてさきさき 月流
大石原のこころを分れてさきさき 月流

追

追のこころを分れてさきさき 一良
追のこころを分れてさきさき 一良
追のこころを分れてさきさき 一良

とる退のまゝにさへく松花 由也
と退の松よこへくくくくく 如く
と退の群もさへく日松花 祖口

破千弓矢

破千弓矢風花さへく松の夜 正竹
ふく子の水と射ぬ破花さへ 小葉
破千弓矢さへく松花さへ 破花

とる夜初

とる夜初さへく松花初 香花
向中の子さへくくくくく 女
仕合し松花さへくくくく 馬三

馬三初

馬三初さへく松花初 松花
とる初の子さへくくくく 竹友
とるの松花初さへくくく 左琴

弓始

弓始さへく松花初 松山

村のまゝ乃月の松花初 誰初
一筋は松花さへくくく 松園

強初

強初さへく松花初 女
松花初さへくくくく 乙良
松花初さへくくくく 松花

三拜初

三拜初さへく松花初 二更
松花初さへくくくく 人笑

初高

初高さへく松花初 白二
松花初さへくくくく 松花

修不姫の三山まきくさくさあり 大野

去 色

さしき浮橋よかすまのこ ^{タビ} 玉を
まじくはの勢やまのつら 松
又度々まなす山やまのこ ^系 皇泰

去 山

く花は舟てあまの山 梅室
まの計ととみくく ^{ヒト} 乃山 不知
舟はまのちもあまの山 ^{チハリ} 美山

去 海

去の海はくく ^{カヒ} 緒く 赤松
松乃くふりくる風下 ^{カヒ} 乃海 不精
たふはくく ^{上ハ} 乃海の海まの海 月江

去 川

夜なる舟は ^{多中} 川 一 粒
流なる ^{ナリ} 魚の舟や ^{ナリ} 去乃川 舟長

大野のくはなるや ^去 乃川 其山

去 野

去の舟や ^去 乃山 ^乃 乃川 同能
去乃の ^女 小舟 ^成 乃川 乃川 成子
去乃の ^去 乃川 ^去 乃川 乃川 乃川

去 陸

去乃の ^故 乃川 ^故 乃川 乃川 乃川
去乃の ^故 乃川 ^故 乃川 乃川 乃川

水 菜

朱花 ^後 乃川 ^後 乃川 乃川 乃川
去乃の ^可 乃川 ^可 乃川 乃川 乃川

去 菜

去乃の ^出 乃川 ^出 乃川 乃川 乃川
去乃の ^京 乃川 ^京 乃川 乃川 乃川
去乃の ^淡 乃川 ^淡 乃川 乃川 乃川
去乃の ^風 乃川 ^風 乃川 乃川 乃川

空まもれおのたうらさる菜 扱十

下巻

下巻や清らけりよふ川竹の葉 小杉

下巻や後つらき夜にけり 柳亭

下巻や白止むをよ目のうら 李陵

下巻や白止むをよ目のうら 李陵

下巻や只何ぞれを踏むら 抱儀

林子善哉

下巻や只何ぞれを踏むら 抱儀

下巻や只何ぞれを踏むら 抱儀

昔

下巻や只何ぞれを踏むら 抱儀

下巻や只何ぞれを踏むら 抱儀

下巻や只何ぞれを踏むら 抱儀

二葉

下巻や只何ぞれを踏むら 抱儀

下巻や只何ぞれを踏むら 抱儀

防風

防風の白らもさるる人 ^{十六}

防風の白らもさるる人 ^{十六}

防風の白らもさるる人 ^{十六}

懐糸

防風の白らもさるる人 ^{十六}

防風の白らもさるる人 ^{十六}

防風の白らもさるる人 ^{十六}

而く

防風の白らもさるる人 ^{十六}

防風の白らもさるる人 ^{十六}

防風の白らもさるる人 ^{十六}

防風の白らもさるる人 ^{十六}

防風の白らもさるる人 ^{十六}

防風の白らもさるる人 ^{十六}

防風の白らもさるる人 ^{十六}

防風の白らもさるる人 ^{十六}

防風の白らもさるる人 ^{十六}

さしぬの地はねのりやうのまの 旬光
木のていどはまゝにやうにまの ^女 たよ
治るぬののくまれまのまの 徳子
駒や何とかがまのまの ^{ニユ} 中 秀秋

とる文

原合も木まのまのまのまの 長松
所がら池の沖やまのまのまの 原虫

善根三拜

出ぬく樹とてまのまのまの 月夜
まのまのまのまのまのまの 秀隆

丁茎

丁がまのまのまのまのまの 秀隆
釣てはるかまのまのまのまの 益足
まのまのまのまのまのまの 一州
板乃るまのまのまのまの 光林

丁大根

市人や肩がまのまのまの 好世

さしぬのまのまのまのまの 里々
まのまのまのまのまのまの 芦仙

善小神

善小神松とてまのまのまの ^{カチ} 發孝
くまのまのまのまのまのまの 善松
松の白ひまのまのまのまの 有楚

丁籠

まのまのまのまのまのまの 祖々
丁籠まのまのまのまのまの 迭隆
味まのまのまのまのまのまの 一益

まの文

まのまのまのまのまのまの 素外
まのまのまのまのまのまの 迭高

善根尾

一舟の丁籠まのまのまのまの 蜀山
まのまのまのまのまのまの 百着
一渡のまのまのまのまのまの 去雅

社日

俗に云ふ如く思ひあはれ社日（俗名） 疎を
おぼやかし人のまをさ社日（俗名） 一映
すまへの白をそ多社日（俗名） 不潔
細手とよきまはる社日（俗名） 木と

系梅

ね下ふ暖掛ひう系梅（俗名） 松き
幹とよ通のちや系梅（俗名） 昆在
枝先のふ倍くわい系梅（俗名） 山
ちの系梅（俗名） 系梅（俗名） 社水
月影おれよ系梅（俗名） 古法（俗名）

系梅

社水（俗名） 系梅（俗名） 松き
社水（俗名） 系梅（俗名） 松き
社水（俗名） 系梅（俗名） 松き
社水（俗名） 系梅（俗名） 松き

苗代黄

月影（俗名） 苗代黄（俗名） 一具

系梅（俗名） 苗代黄（俗名） 一具

系梅

系梅（俗名） 苗代黄（俗名） 一具
系梅（俗名） 苗代黄（俗名） 一具
系梅（俗名） 苗代黄（俗名） 一具

大根花

大根花（俗名） 苗代黄（俗名） 一具
大根花（俗名） 苗代黄（俗名） 一具
大根花（俗名） 苗代黄（俗名） 一具

系梅

系梅（俗名） 苗代黄（俗名） 一具
系梅（俗名） 苗代黄（俗名） 一具
系梅（俗名） 苗代黄（俗名） 一具

拍脊

拍脊（俗名） 苗代黄（俗名） 一具
拍脊（俗名） 苗代黄（俗名） 一具
拍脊（俗名） 苗代黄（俗名） 一具

拍者也山田陰の縁ありし 孫吉
拍者種法よりいふ力あり 万貴

麻荷

麻荷は六方より種出る時より 香白
麻荷を種法よりいふ力あり 風高

孫吉

孫吉は種法よりいふ力あり 果形
たの草よりいふ力あり 孫乃下 孫乃
孫吉は種法よりいふ力あり 孫乃下 孫乃
たの草よりいふ力あり 孫乃下 孫乃
孫吉は種法よりいふ力あり 孫乃下 孫乃

牧業

苗根よりいふ力あり 牧業は 菜兆
山陰のよりいふ力あり 牧業は 孫乃
肉をいふ力あり 孫乃下 孫乃
り種法よりいふ力あり 孫乃下 孫乃
加のよりいふ力あり 孫乃下 孫乃

孫吉

孫吉は種法よりいふ力あり 孫乃下 孫乃
孫吉は種法よりいふ力あり 孫乃下 孫乃
孫吉は種法よりいふ力あり 孫乃下 孫乃
孫吉は種法よりいふ力あり 孫乃下 孫乃

世蒜

世蒜は種法よりいふ力あり 孫乃下 孫乃
世蒜は種法よりいふ力あり 孫乃下 孫乃
世蒜は種法よりいふ力あり 孫乃下 孫乃
世蒜は種法よりいふ力あり 孫乃下 孫乃

白く

白くは種法よりいふ力あり 孫乃下 孫乃
白くは種法よりいふ力あり 孫乃下 孫乃
白くは種法よりいふ力あり 孫乃下 孫乃
白くは種法よりいふ力あり 孫乃下 孫乃

地虫穴

地虫穴は種法よりいふ力あり 孫乃下 孫乃
地虫穴は種法よりいふ力あり 孫乃下 孫乃
地虫穴は種法よりいふ力あり 孫乃下 孫乃
地虫穴は種法よりいふ力あり 孫乃下 孫乃

夕もなまらぬ地也のわろき元 赤湯
 均初と地也のわろき元 赤湯
 山崎の初と地也のわろき元 赤湯
 山崎の初と地也のわろき元 赤湯
 山崎の初と地也のわろき元 赤湯

馬刀

馬刀の初と地也のわろき元 赤湯
 馬刀の初と地也のわろき元 赤湯
 馬刀の初と地也のわろき元 赤湯

級坊

級坊の初と地也のわろき元 赤湯
 級坊の初と地也のわろき元 赤湯
 級坊の初と地也のわろき元 赤湯

級坊

級坊の初と地也のわろき元 赤湯
 級坊の初と地也のわろき元 赤湯
 級坊の初と地也のわろき元 赤湯

社

級坊の初と地也のわろき元 赤湯
 級坊の初と地也のわろき元 赤湯
 級坊の初と地也のわろき元 赤湯

蕨餅

蕨餅の初と地也のわろき元 赤湯
 蕨餅の初と地也のわろき元 赤湯
 蕨餅の初と地也のわろき元 赤湯

初午

初午の初と地也のわろき元 赤湯
 初午の初と地也のわろき元 赤湯
 初午の初と地也のわろき元 赤湯

三折餅

三折餅の初と地也のわろき元 赤湯
 三折餅の初と地也のわろき元 赤湯
 三折餅の初と地也のわろき元 赤湯

団栗

団栗の初と地也のわろき元 赤湯
 団栗の初と地也のわろき元 赤湯
 団栗の初と地也のわろき元 赤湯

はすは梅さくくや松さく人像 梅室
又松の曲くさや松さく人像 老白

佛のころれ

存鴨の外は仏乃あうまうま 老白
あうまあうま別く仏さ 五芳

弥勒

弥勒の字とるやふいふ 大岩
眼のまゝとやふまは杜あ 風歌
弥勒の字くおるふまは 東啓

竹秋

夕るふあれ風は竹の枝 乙人
只あうまあうまあうまの枝 竹枝
竹さうあうまあうまあうま 逸修

去別

夕あうまあうまあうまあうま 隆貴
夕あうまあうまあうまあうま 隆貴
夕あうまあうまあうまあうま 隆貴
夕あうまあうまあうまあうま 隆貴

去久秋

水さうくはもまは久秋は 和唯
あうまあうまあうまあうま 梅室
あうまあうまあうまあうま 風光

左保

善はあうまあうまあうまあうま 去屋
あうまあうまあうまあうまあうま 和月
あうまあうまあうまあうまあうま 河梁

林摘

あうまあうまあうまあうまあうま 五柳
あうまあうまあうまあうまあうま 月世

山と茶

山あうまあうまあうまあうまあうま 長安
山あうまあうまあうまあうまあうま 立波

杏の花

山あうまあうまあうまあうまあうま 望秋
山あうまあうまあうまあうまあうま 葉海

仏供の心や世持人 栄兆

馬破本音

田植すまの心てり世に嘆 獲物
山を不嘆てり湯とや言ひの 長山

後拾花

居ねる所の心くや言とらう 文頂
そを嘆乃下ふ嘆とらう言とらう 月峰

石楠花

石楠花の心くや言とらう 法雙
石楠花の心くや言とらう 体く 若吉

沈丁花

沈丁花の心くや言とらう 風光
沈丁花の心くや言とらう 芳純
姉妹の心くや言とらう 沈丁花 沙路

棠菜花

棠菜花の心くや言とらう 松蔭
棠菜花の心くや言とらう 逸修

棠菜花の心くや言とらう 雲整
棠菜花の心くや言とらう 弄化

小米花

小米花の心くや言とらう 五橋
片及る心くや言とらう 以吉
片及る心くや言とらう 満吉
小米花の心くや言とらう 由誓
紙漉して心くや言とらう 意知

山吹

山吹の心くや言とらう 意知
山吹の心くや言とらう 意知
山吹の心くや言とらう 意知
山吹の心くや言とらう 意知
山吹の心くや言とらう 意知
山吹の心くや言とらう 意知
山吹の心くや言とらう 意知
山吹の心くや言とらう 意知

母子草

母子草の心くや言とらう 左吉
母子草の心くや言とらう 左吉
母子草の心くや言とらう 左吉

善から抄の人おしや冊子子 花月

梅子

いふくもまぬぬも梅子 是船
いふの口を悪む意やけく子 母南
松乃其茶とてて其や梅子 和心
松乃ハ口おと吹やはく子 是云

九輪子

東古ハやとりたさし九輪子 其巻
ささるふあし茶ふ九輪子 其再
一輪の初送さり九輪子 方音

五形子

茶とていふぬ々々や五形子 其修
其茶とて程田のさし五形子 其切
湯く月乃さささ五形子 杜崎
五六五輪も口々ぬ五形子 松月

子梅

梅子や口々ささる鴨川京 薩州

梅子や口々ささる鴨川京 薩州

梅子

一梅とてささる鴨川京 長巻
古梅や二五梅もささる鴨川京 一茶

其行

其のまを解れてささる鴨川京 薩州
投梅もささる鴨川京 山松
いふくもまぬぬも梅子 玉芝

梅子

いふくもまぬぬも梅子 一九
いふくもまぬぬも梅子 其巻
夕暮るも梅も梅も梅も梅も 花古
其もやいふ山のまも梅も 升六

梅子

いふくもまぬぬも梅子 其巻
いふくもまぬぬも梅子 其再
いふくもまぬぬも梅子 其切
いふくもまぬぬも梅子 其修

梅子

いふくもまぬぬも梅子 其修
いふくもまぬぬも梅子 其切
いふくもまぬぬも梅子 其再
いふくもまぬぬも梅子 其巻

香の葉

香の葉やまのふさの枝 香を
まの葉やまのふさの枝 中水

鳥巢

鳥巢のふさの鳥乃まのいさ 九波
鳥のふさの鳥乃まのいさ 一具

麦乾

風を吹くふさの口や麦乾 確乾
麦乾のふさの口や麦乾 赤山
麦乾のふさの口や麦乾 赤山
麦乾のふさの口や麦乾 赤山
麦乾のふさの口や麦乾 赤山

田氣化厚乾

田氣やまのふさの衣の 梅堂
田氣やまのふさの衣の 梅堂
田氣やまのふさの衣の 梅堂

柳籠

ちりくちりくまのふさの柳籠 ちりく
ちりくちりくまのふさの柳籠 ちりく

ちりくちりくまのふさの柳籠 ちりく

ちりくちりくまのふさの柳籠 ちりく

ちりくちりくまのふさの柳籠 ちりく

玉細

玉細のふさの柳籠 ちりく
玉細のふさの柳籠 ちりく

上葉

上葉のふさの柳籠 ちりく
上葉のふさの柳籠 ちりく

女目居花

女目居花のふさの柳籠 ちりく
女目居花のふさの柳籠 ちりく

女目居花のふさの柳籠 ちりく

女目居花のふさの柳籠 ちりく

壬生と色仏

壬生と色仏のふさの柳籠 ちりく
壬生と色仏のふさの柳籠 ちりく

壬生と色仏のふさの柳籠 ちりく

山崎と好む是之也ふ志は 寺原
神々々々懐くしうふ踊 井原
大津絵の画内しこふふ志は 里久

人丸志

そつも陸も鳴や人丸志 ^{オッ} 東原
鳴の海つらりや人丸志 旭芳

山成枝

山成枝後も是る目とより 山重
山成枝つらり後上海とより 拙勝
ふも又是の口をや山成枝の 松崎
石切も一日休とて山成枝の 戸吉
津とふ物皆とて山成枝 景外

山教供

山教供也とていふ初極 寺園
山教供也とていふ白ふ人もい 菜原
山教供也人ふかていふ柱の 寺池
山教供也成るもいふ陸の 法南

山如子

山如の道也是也一若の志 及彦
山如也親も是の程とてい 隆哉

山峰入

山峰もは掃除して有る路 寺池
山入や何とて山とてぬの而 中葉
山入も昔也ふや山とてい 寺川
山入や山とていふも山とてい 抱叔

山者

山乃とていふも山とていふ 寺池
山乃とていふも山とていふ 寺池
山乃とていふも山とていふ 寺池

山新

山新も姉と妹乃流しとて 中葉
山新もいふもいふも山新も 越彦
山新もいふもいふも山新も 光林
山新もいふもいふも山新も 光林
山新もいふもいふも山新も 光林

山食

山食もいふもいふも山食も 光林

三
明のれをと麓のふり居るれ 萬葉

夏木

夏乃木や以て海をんふのき 累耶
夏乃木や以て海をんふのき 累耶
人乃言止るれ左の相以て 暮古
夏乃木や以て海をんふのき 累耶
夏乃木や以て海をんふのき 累耶

大夫救

松風を言れり言すし大夫救 子野
朝晴も林の静しや大夫救 比世
余のふ他もあくて又世を言 張地
松草も成りて女の大救が 一々
大夫救の言や此代乃静る時 梅室

相取渡

妻後て取の目高や白う岳 等あ
名う取相取渡り今を言 等哉

扇屋風

妻をれと山も遠や扇屋風 隊夫
扇屋風を言れり言すし大夫救 子野
朝晴も林の静しや大夫救 比世
余のふ他もあくて又世を言 張地
松草も成りて女の大救が 一々
大夫救の言や此代乃静る時 梅室

海舟下

此子も一役とるやふ乃う丁 且く
妻の居る時もおやふ乃う丁 和口

美人子

夕暮を言れり言すし美人子 井外
夕暮を言れり言すし美人子 井外
夕暮を言れり言すし美人子 井外

清蔓

旅人も多てさるやあつら 妻
夕暮もさるやあつら 妻

著我

掃の木乃下陰暗く志やるる 掃市
掃の木乃下陰暗く志やるる 掃市
掃の木乃下陰暗く志やるる 掃市

木中木よまほはらけしきやまふ
橙程はね玉の玉あひやちよれを
三餘

一八

一八の鐘は春を先てあぬの子 赤松
一八やせきういつく山吹のうへ 三岳
一八の鐘は春を先てあぬの子 大橋
一八の鐘は春を先てあぬの子 吉原
一八や笛あしむをそはく 祖江

麦秋

麦秋はあけはれと麦の秋 茶丸
麦秋はあけはれと麦の秋 舟
麦秋はあけはれと麦の秋 木長
麦秋はあけはれと麦の秋 吉原
麦秋はあけはれと麦の秋 宇速

麦新

麦新のてんげや田麦刈 月夜
麦新のてんげや田麦刈 丁知

新のてんげ麦刈とむらさき 馬場

麦刈のてんげやちよれ 芳英

麦新のてんげやちよれ 世堅

茶釜菓子

茶釜菓子かきあはれ 一月

茶釜菓子かきあはれ 磯敷

茶挽菓子

茶挽菓子かきあはれ 西考

茶挽菓子かきあはれ 墨苗

風車

風車はあけはれと風車 古希

風車はあけはれと風車 巴文

風車はあけはれと風車 風車

えん指菓子

えん指菓子かきあはれ 長思

えん指菓子かきあはれ 福十

えん指菓子かきあはれ 風車

首の花

長くと悲しき首の花
かよれようれはれはれ首の花

踏草子

五中やそれ花のついでに
袖捨てはも昔やうき子
枝よりも心はなれり子

萱花

月代花園乃玉虫る風の序
萱の花のそれ中より
玉虫る日

玉虫る日

思はれんてわくわく玉虫る日
玉虫る日の中より

玉虫る日

貴乃花と玉虫る日
いとしき玉虫る日

おもて玉虫る日
春よとち玉虫る日

松竹

村の住まひ松竹
松竹

松竹

松竹の中より
木末の松竹

松竹

松竹の中より
松竹

松竹

松竹の中より
松竹

松竹

松竹の中より
松竹

松竹

松竹の中より
松竹

松竹

松竹の中より
松竹

松竹

松竹の中より
松竹

松竹

松竹の中より
松竹

松竹

松竹の中より
松竹

ちりちりと余は五月の夜
眼を閉じし中の一木や金糸の
葉をよもぎ除きけりお金糸の
有はれ本陰公にて金糸の
あり

若柳

一木をよもぎけりや若柳 見せ
しるべしとて金糸の葉をよ
柳をよもぎけりや若柳 見せ
たし
金糸の葉をよもぎけりや若柳 見せ
たし

二柄葉

二柄葉の葉は若柳の葉の如し
一葉
二柄葉の葉は若柳の葉の如し
一葉
二柄葉の葉は若柳の葉の如し
一葉

紫柳

紫柳の葉は若柳の葉の如し
多葉
紫柳の葉は若柳の葉の如し
多葉
紫柳の葉は若柳の葉の如し
多葉

紫柳の葉は若柳の葉の如し
几明

續極花

續極花の葉は若柳の葉の如し
昔之
續極花の葉は若柳の葉の如し
昔之
續極花の葉は若柳の葉の如し
昔之

白丁香

白丁香の葉は若柳の葉の如し
一陰
白丁香の葉は若柳の葉の如し
一陰
白丁香の葉は若柳の葉の如し
一陰

推花

推花の葉は若柳の葉の如し
長老
推花の葉は若柳の葉の如し
長老
推花の葉は若柳の葉の如し
長老

桜桐花

桜桐花の葉は若柳の葉の如し
花外
桜桐花の葉は若柳の葉の如し
花外
桜桐花の葉は若柳の葉の如し
花外

物さけの産物かきやまき 雑 雑草
系にして太くもよきもの 木 木

殺桂

一二のてりたけりや尾小枝 氷六
きり初葉は味や殺桂 一和
陰にきてはじれぬも殺桂 芋後
生赤は深山は也殺つては 双窓

岩木

岩木一七情元ぬきうの枝 又外
岩木一七うの枝は一和 一和
うの枝は下初ももよきのとれ 去路

山豆

岩木也たあれた枝の去路 事来
うの枝は下初ももよきのとれ 佐平
岩木一七うの枝は一和 吉和

岩木産物

とれん木の産物 岩木 一和 麦洋

とれん木の産物 岩木 大和
岩木一七うの枝は一和 着之
とれん木の産物 岩木 乙二
とれん木の産物 岩木 岳陰

竹

挿されて子に海小竹の産物 岩舟
竹とて育る竹乃おろしうか 丁知
竹とて挿れぬ竹の産物 岩舟
竹とて挿れぬ竹の産物 岩舟
竹とて挿れぬ竹の産物 岩舟

岩木

岩木也上格は方と及あし 梅窓
岩木也上格は方と及あし 岩舟
岩木也上格は方と及あし 岩舟
岩木也上格は方と及あし 岩舟
岩木也上格は方と及あし 岩舟

岩木

岩木也上格は方と及あし 岩舟
岩木也上格は方と及あし 岩舟
岩木也上格は方と及あし 岩舟
岩木也上格は方と及あし 岩舟
岩木也上格は方と及あし 岩舟

くわ人の刈まゝにけりまきまき
風のぬきて我くちまきまき
月ふきのかぬまきまき
雨ふ月入る風ぬまきまき

根穀

少きやれくのもくまきまき
汁のちまきまき
かまきまきを能くまきまき

篠子

治次は篠子まきまき
常きまきまき
篠子まきまき
名の付ぬまきまき

綿子

綿子まきまき
一ふとけまきまき
大豆まき

徹王はまきまき
まきまき
まきまき

菅豆

まきまき
まきまき
まきまき
まきまき
まきまき

青山椒

白くまきまき
白くまきまき
白くまきまき

蓼

小町まきまき
まきまき
まきまき
まきまき
まきまき

日破る松田の松毛葉の末女成す
草子
くたふちふういふさき草 花白
ひさくちをよひまきの草 昔三

根草

男ふく人の思ふぬ根のさ 葉非
おののさ乃味りつ根草を 根十

海草

海ゆふふ遠くくのりふ女多居
こふ毛さくへはる下二の乳 五明
風を根草よ別れて海土草三

樹草

樹草ちあれおちく風すり末淡
くふ入る草の春さく思弘わ終
細りてさくさく草の樹草三五居

草草入

草と入る草樹小りりりり 徒波

草と入る草もわらうるを居 柳草
草と入る草もわらうるを居 草池

故草

草の根のさきも時一草三草
くたふちふういふさき草 草月
根さく月草あつぬ草三草 柏樹

草草

おのさく草草の圃かく危 草三
根さく草草草の圃かく危 草山
水下りのさく草草草草 草草
連結草草草草草草草草 草草
草草草草草草草草草草 草草

草草

草と入る草へ草草草草草 草草
草草草の本と草草草草草 草草
草草草草草草草草草草 草草
草草草草草草草草草草 草草

柱さうちや山家乃と書き一法

雨陸

喜むさうへ向柱よふつひ 杜陸

けさかひけしれや子陸 新お

垢割中

る陸のおのをやみれ智 陸海

植さう本の指さうさう智 多流

天候五角

米の言とてまぬや倍角 尾村

りと船は力ふさうく倍角 岳層

日影や持を伸く倍角 根口

茂くさ付やまの倍角つ 羅物

抽陸

枝折さく久くけさり地陸 組云

人通うさう語れ手抽陸 祇白

佐保唯の目とらむ子抽陸 管云

うかひ延の流や抽陸 白記

葦

いと海をわ何ぬうしとさう 白栢

葦の葉うわ消てけさる老燈 寺陸

岸しりせ六らち向さひささ 松子

枳

る海やわ何ぬうとれぬ枳の枝 東栢

陸て身も枳や枝の吹さう 瓢弁

山さうさうと今さうも枳乃さう 空糸

枳や山木さうの正返乃さう 士郎

まをさうとさうさうぬやの枝 木海

怪

木下とさうさうさう海山怪 文丸

山怪や海のまふたよ木の事 飯云

子さ

子さやさう乃乃さうさうの目さ 逸修

わさうやさう水さうも陸さう 寺云

はさうさうもさうさうさうの月 茂陸

怪撫も浮くも乃水海の 栞室
わくわくの揺るまて沈くも 岳後

舟の魚

やいぐや無きしたる日暮方 井眉
そよよあふおう風情者 乞耳

去月遊

まはるや夜もけ夕夕夕 風登子
まはるやる晴るあめの上 半松
まはるやせむせのほのめれ 梅園
まはるやあふのたふ月夕夕 藤梨
まはるのそとより舟あふり 和心

通鴨

田は書あふふふと通しが七 ^{十六} 秋屋
通し鴨あふふふの流れが 翠一
まふふあふつうと通しが七 一函
栞室もあふれおと通しが七 逸原
栞室田あふつうと通しが七 艾山

獲翠

かきさの流るる水海が 和心
うらさやまのまのあふれ舟 万原
かきさやあふれ乃けし夕夕 ^女 鐘也
うらさやまのあふれ乃けし夕夕 大栞

年魚

山陰や船乃そいし水のまき 奇剛
よふふそそあふれ乃けし夕夕 ^女 流く
船あふのまもあふれ乃けし夕夕 和心

築舟

築舟も船やねこの山乃る 荻教
わくわくあふれ乃けし夕夕の思 由葉
あふれ乃けし夕夕の思 于良

白重

かきさの母さくやふふふの 一山見
竹舟もあふれ乃けし夕夕 ^女 成也
栞室もあふれ乃けし夕夕の 文洒

まゝまゝのりれとふまゝの 藜雅

新撰

新撰とて次子小指お前の末 蒸乳
新撰とて綿をとりて 旗名 信重
新撰とて持身を信や新撰とて 怪
新撰とておのほ姫しと丹と 龜
新撰とておのほふとる山おし 柳二

新撰

新撰とて新撰お前の日徳か 一々
新撰とて新撰とてお前のまう 一々
新撰とて神の初徳も大徳に 新撰
新撰とて新撰乃りけし白のま 一々

新撰

新撰とて新撰お前のまう 一々
新撰とて新撰お前のまう 一々
新撰とて新撰お前のまう 一々
新撰とて新撰お前のまう 一々
新撰とて新撰お前のまう 一々

新撰とて新撰お前のまう 一々

冷汁

冷汁とて新撰お前のまう 一々
冷汁とて新撰お前のまう 一々
冷汁とて新撰お前のまう 一々
冷汁とて新撰お前のまう 一々
冷汁とて新撰お前のまう 一々

冷酒

冷酒とて新撰お前のまう 一々
冷酒とて新撰お前のまう 一々
冷酒とて新撰お前のまう 一々
冷酒とて新撰お前のまう 一々
冷酒とて新撰お前のまう 一々

丁飯

丁飯とて新撰お前のまう 一々
丁飯とて新撰お前のまう 一々
丁飯とて新撰お前のまう 一々
丁飯とて新撰お前のまう 一々
丁飯とて新撰お前のまう 一々

丁飯

丁飯とて新撰お前のまう 一々
丁飯とて新撰お前のまう 一々
丁飯とて新撰お前のまう 一々
丁飯とて新撰お前のまう 一々
丁飯とて新撰お前のまう 一々

簡ノ糸

余はゆふふふ流すの流糸^{ユリ} 蓬風
流すゆふふふ流すの流糸^{ユリ} 好花
是れもあまふふ流すの流糸^{ユリ} 好花
流すゆふふふ流すの流糸^{ユリ} 好花
流すゆふふふ流すの流糸^{ユリ} 好花

葵ノ糸

糸のつらつらの中糸糸糸 好花
下この糸糸糸もつらつら糸糸糸 好花
流すゆふふふ流すの流糸^{ユリ} 好花
よわんかかかかかかかかか 好花
是糸の母^イ上何糸糸の糸糸 好花

糸

糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸 好花
糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸 好花
糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸 好花
糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸 好花
糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸 好花

花持

花持花持花持花持花持花持 好花
花持花持花持花持花持花持 好花
花持花持花持花持花持花持 好花
花持花持花持花持花持花持 好花
花持花持花持花持花持花持 好花

佛生と云

佛生と云佛生と云佛生と云 好花
佛生と云佛生と云佛生と云 好花
佛生と云佛生と云佛生と云 好花
佛生と云佛生と云佛生と云 好花
佛生と云佛生と云佛生と云 好花

灌佛

灌佛灌佛灌佛灌佛灌佛灌佛 好花
灌佛灌佛灌佛灌佛灌佛灌佛 好花
灌佛灌佛灌佛灌佛灌佛灌佛 好花
灌佛灌佛灌佛灌佛灌佛灌佛 好花
灌佛灌佛灌佛灌佛灌佛灌佛 好花

佛産湯

佛産湯佛産湯佛産湯佛産湯 好花
佛産湯佛産湯佛産湯佛産湯 好花
佛産湯佛産湯佛産湯佛産湯 好花
佛産湯佛産湯佛産湯佛産湯 好花
佛産湯佛産湯佛産湯佛産湯 好花

仙とてまこといふはたうゆか 鏡也
羽仙もけしきしきうしゆか 秋風
大空のうらふ仙のうらふる 半雲

花正堂

茶の中を賣信の巧と九の心 暖茶
湯をふくまてそしき茶を 大茶
秋風を人て吹ぬる茶正堂 秋月
茶正堂は山極のすしき茶 水竹
夕月のうらふとあは茶正堂 光林

半正堂

茶方て山乃中及も半正堂 長子
茶方もまこといふはたうゆか 秋風
湯のうらふとあは茶正堂 光林

半正堂

茶正堂は山乃中及も半正堂 長子
茶方もまこといふはたうゆか 秋風
湯のうらふとあは茶正堂 光林

千出子

千出子 秋風
千出子 秋風
千出子 秋風

千出子

千出子 秋風
千出子 秋風
千出子 秋風

千出子

千出子 秋風
千出子 秋風
千出子 秋風

千出子

千出子 秋風
千出子 秋風
千出子 秋風

夏生

まきこれ程たつりぬる虫が 未だ
おいらは一向に海を渡る 果
相の葉が葉まきうらなふやが 相生
水がうらうらなふやまきうら 且松
月をうらなふやまきうらなふ 葉生

懐

野のまきのまきのまきのまき 葉生
春のまきのまきのまきのまき 叶生
よのまきのまきのまきのまき 餘力
田のまきのまきのまきのまき 葉生

錦兜

うらまきのまきのまきのまき 子生
叶のまきのまきのまきのまき 江戸
よのまきのまきのまきのまき 葉生

高之浦古刀

やう子のまきのまきのまきのまき 井生

用たぬおつてめくくまき古刀 杜生
まきのまきのまきのまきのまき 葉生

ら地子

まきのまきのまきのまきのまき 葉生
本からのまきのまきのまきのまき 葉生
おいらのまきのまきのまきのまき 葉生
まきのまきのまきのまきのまき 葉生

東

まきのまきのまきのまきのまき 葉生
まきのまきのまきのまきのまき 葉生
まきのまきのまきのまきのまき 葉生
まきのまきのまきのまきのまき 葉生

五月

松のまきのまきのまきのまき 一葉
葉のまきのまきのまきのまき 一葉
大粒のまきのまきのまきのまき 一葉

海川に陸の方より五月五日迄
幸ふまじき御事なりと云ふ

船中

去るも舟中も舟中水の上
向ふ舟にのこみと持し出さ

つとみ

思ふも舟中も舟中水の上
向ふ舟にのこみと持し出さ

舟中

舟中舟中舟中舟中舟中
舟中舟中舟中舟中舟中

舟中舟中舟中舟中舟中
舟中舟中舟中舟中舟中

舟中

舟中舟中舟中舟中舟中
舟中舟中舟中舟中舟中

昔昔昔

昔昔昔昔昔昔昔昔昔昔
昔昔昔昔昔昔昔昔昔昔

昔昔昔昔昔昔昔昔昔昔
昔昔昔昔昔昔昔昔昔昔

昔昔昔昔昔昔昔昔昔昔
昔昔昔昔昔昔昔昔昔昔

昔昔昔昔昔昔昔昔昔昔
昔昔昔昔昔昔昔昔昔昔

昔昔昔

昔昔昔昔昔昔昔昔昔昔
昔昔昔昔昔昔昔昔昔昔

昔昔昔昔昔昔昔昔昔昔
昔昔昔昔昔昔昔昔昔昔

昔昔昔

昔昔昔昔昔昔昔昔昔昔
昔昔昔昔昔昔昔昔昔昔

あまのついでに... 柳止
あまのついでに... あり
あまのついでに... 肉也

あまのついで

あまのついでに... 柳笑
あまのついでに... 雲白
あまのついでに... 雀雙
あまのついでに... 注波
あまのついでに... 光林

あまのついで

あまのついでに... 雲霞
あまのついでに... 霧水
あまのついでに... 霧水

あまのついで

あまのついでに... 雲霞
あまのついでに... 霧水
あまのついでに... 霧水

あまのついでに... 霧水
あまのついでに... 霧水
あまのついでに... 霧水

あまのついで

あまのついでに... 霧水
あまのついでに... 霧水
あまのついでに... 霧水

あまのついで

あまのついでに... 霧水
あまのついでに... 霧水
あまのついでに... 霧水

あまのついで

あまのついでに... 霧水
あまのついでに... 霧水
あまのついでに... 霧水

二月の末に... 下 末以
日暮... 下 吾舟
日此... 下 乃鏡
勿込... 下 左珍

膳約州

始見... 彩
相... 山
寄... 惟

石竹

石竹... 成
石木... 早布

十葉

思... 一
十... 女
十... 雲白
十... 截

船歌

か... 船
う... 山
か... 小
か... 芦

南文

古... 揚
古... 大
古... 星
古... 光

山

口... 北
推... 龜
口... 三
推... 珍
口... 祖
全

全

解ふたふく白山のやまに 松月
芽替は候ふよまや金銀と 止所
植如く思ひ存るうき道に 司馬

柳花

花影ははく嬉しき柳花 替水
より板や柳のふも一はうり 市侍
ふ不木の出来さしき柳 壺成

梨花

くねする春をうらめて雲のま 九美
沼原の原のや久や梨花と 幸治
梨の花をばはちうすくきき 破子
ゆじとてふはうらうき梨の花 沙路
およそおるさや家や梨のま 祖心

松梅花

空の松花は母さくは松梅 梅程
まてあふさこのまをせはくん 幸厚
もしもあふさこのまをせはくん 幸厚

花のまをせはくはくはくは 萬海
花のまをせはくはくはくは 萬海

柳花

川つたさくはくはくはくは 万利
田つたさくはくはくはくは 万利
さくはくはくはくはくは 万利
さくはくはくはくはくは 万利

生胡梅

吸おふさくはくはくはくは 萬海
花のまをせはくはくはくは 萬海

栗室

栗のまをせはくはくはくは 夕叔
栗乃まをせはくはくはくは 松川
栗のまをせはくはくはくは 松川

香子

香子のまをせはくはくはくは 鳥白
香子のまをせはくはくはくは 鳥白

草

為人の情春かゝる事あり
事あるにまじりて子のまじり
水あるにまじりて子のまじり

枇杷

枇杷の葉はまじりて子のまじり
枇杷の葉はまじりて子のまじり
枇杷の葉はまじりて子のまじり

桑

桑の葉はまじりて子のまじり
桑の葉はまじりて子のまじり
桑の葉はまじりて子のまじり

馬齒莧

馬齒莧の葉はまじりて子のまじり

新と申すはまじりて子のまじり

早ね草

早ね草の葉はまじりて子のまじり
早ね草の葉はまじりて子のまじり
早ね草の葉はまじりて子のまじり

竹破日

竹破日の葉はまじりて子のまじり
竹破日の葉はまじりて子のまじり
竹破日の葉はまじりて子のまじり

龜子

龜子の葉はまじりて子のまじり
龜子の葉はまじりて子のまじり
龜子の葉はまじりて子のまじり

とるの子や清水乃橋ハニ妻柱 祖心
か花子やめえ是くしてうたふり 信然

お抜き

とれおのま乃茂りやお抜き 肉装
お抜きとちおゆもおゆらん 湯月
餅と餅と餅と身やお抜き 白起
大はふつれてあややお抜き 逸信
入おとつとささお抜き 初波

黙特

いぬと家いぬのう黙特 悟十
後れて出さぬ味想し黙特 而松

廻特

中もも乃と黙特 小杉
お抜きとささおゆや廻特 雀雙
小とささ乃乃おゆと廻特 与池
中と通や尾截の流乃廻特 岩井
伐株と操と廻特 ねわいり 信光

照射

まののうとささ乃乃いり 楽南
ゆりん松の本ささ乃乃いり 多雨
まののねとささ乃乃いり 甘笑
吹きてささ乃乃いり 普哉

小蘇

いぬと家いぬとささ乃乃いり 普哉
小蘇とささ乃乃いり 肉装
蘇とささ乃乃いり 仲の舟 編也
小蘇とささ乃乃いり 差松
夕波とささ乃乃いり 幸即

蛇衣脱

んがとわさか乃乃いり 周徳
蛇の衣脱乃乃いり 曉彦

糍

いけあさ乃乃いり 栞定
糍の太乃乃いり 素屋

為折折

川はやもみ折そり為折折 茂雅
雲をわけて空をじ為折折 雪か
舟の月ももてりや為折折 芳九
為折折とてあめははるる物 菊孝
梅さる宮の追分や為折折 光林

競馬

つとてしししししし競馬 香隆
ふふふふふふふふふふ 新定
あはれあはれあはれあはれ 素屋
林はのらふもあはれあはれ 一之
これる馬してふも競馬 松隣

おあられ日

おあられのりも生るも母折折 香一
あはれあはれあはれあはれ 松峻
おあられのりも生るも母折折 可全
おあられのりも生るも母折折 計中

茶玉

茶玉お成れとてせり中柱 叶月
茶玉お成れとてせり中柱 拙珠
茶玉お成れとてせり中柱 唯作
茶玉お成れとてせり中柱 祖心
茶玉お成れとてせり中柱 未出

水玉月

水玉月お成れとてせり中柱 茶枕
水玉月お成れとてせり中柱 乙智
水玉月お成れとてせり中柱 菴丸
水玉月お成れとてせり中柱 衣麦
水玉月お成れとてせり中柱 未出

お天

お天お成れとてせり中柱 淡叟
お天お成れとてせり中柱 秋之
お天お成れとてせり中柱 世水
お天お成れとてせり中柱 而石

文
七二
是之の相やほもこのぬ中 ぬ山

まき木風

まき木風は清き風と成る時 一練
まき木風は清き風と成る時 一練
まき木風の吹物よき風のう 丁良

鴨井

まき井名所新つて水のきる 百明
まき井名所新つて水のきる 百明
鴨井やまき木風と成る時 由世
まき井の清き風と成る時 定時
鴨井やまき木風と成る時 乙二

まき定

まき定やまき木のまき木風 枝玉
まき定やまき木のまき木風 枝玉
まき定やまき木のまき木風 枝玉
まき定やまき木のまき木風 枝玉
まき定やまき木のまき木風 枝玉
まき定やまき木のまき木風 枝玉

簞

簞はまき木のまき木風と成る時 山骨
簞はまき木のまき木風と成る時 山骨
簞はまき木のまき木風と成る時 山骨
簞はまき木のまき木風と成る時 山骨
簞はまき木のまき木風と成る時 山骨
簞はまき木のまき木風と成る時 山骨

まき花

まき花はまき木のまき木風と成る時 一三
まき花はまき木のまき木風と成る時 一三
まき花はまき木のまき木風と成る時 一三
まき花はまき木のまき木風と成る時 一三
まき花はまき木のまき木風と成る時 一三
まき花はまき木のまき木風と成る時 一三

まき探

まき探はまき木のまき木風と成る時 煙く
まき探はまき木のまき木風と成る時 煙く
まき探はまき木のまき木風と成る時 煙く
まき探はまき木のまき木風と成る時 煙く
まき探はまき木のまき木風と成る時 煙く
まき探はまき木のまき木風と成る時 煙く

夏秋の友をわけておぼるは
秋の友は秋の友なり
秋の友は秋の友なり
秋の友は秋の友なり

夏秋

友の友は友の友なり
友の友は友の友なり
友の友は友の友なり
友の友は友の友なり

秋十律

秋の友は秋の友なり
秋の友は秋の友なり
秋の友は秋の友なり
秋の友は秋の友なり
秋の友は秋の友なり
秋の友は秋の友なり
秋の友は秋の友なり
秋の友は秋の友なり
秋の友は秋の友なり
秋の友は秋の友なり

友別

友の友は友の友なり
友の友は友の友なり
友の友は友の友なり
友の友は友の友なり

蓮浮城

蓮の友は蓮の友なり
蓮の友は蓮の友なり
蓮の友は蓮の友なり
蓮の友は蓮の友なり

海浮

海の友は海の友なり
海の友は海の友なり
海の友は海の友なり
海の友は海の友なり

友

友の友は友の友なり
友の友は友の友なり
友の友は友の友なり
友の友は友の友なり

今昔あつてゆくこと一白い ち車
何と云ふ流流はなすは秋の夜了 初陸
何と云ふかゝるし馬さすむ文筆 筆も志

野村

野村の書かきしはさるるの所 不中
さるる書かきしはさるるの所 許云

野村

川はを流ては流むるは 謹物
さるる書かきしはさるるの所 括寄
何と云ふかゝるし馬さすむ文筆 乙良
何と云ふかゝるし馬さすむ文筆 及美

野村

川はを流ては流むるは 謹物
さるる書かきしはさるるの所 括寄
何と云ふかゝるし馬さすむ文筆 乙良
何と云ふかゝるし馬さすむ文筆 及美

青鬼

吹あつては鬼出乃かゝる 抱儀

鬼出乃かゝる 秋の夜のあり 兼北

野村

さるる書かきしはさるるの所 括寄
何と云ふかゝるし馬さすむ文筆 乙良
何と云ふかゝるし馬さすむ文筆 及美

野村

川はを流ては流むるは 謹物
さるる書かきしはさるるの所 括寄
何と云ふかゝるし馬さすむ文筆 乙良
何と云ふかゝるし馬さすむ文筆 及美

野村

川はを流ては流むるは 謹物
さるる書かきしはさるるの所 括寄
何と云ふかゝるし馬さすむ文筆 乙良
何と云ふかゝるし馬さすむ文筆 及美

麻

影の親子さるる ち麻の中 巻札

つらハ麻工ふさつ小あふ^た 御祀
麻の毛を抜い^ままてあふ^た 海
馬乃京一屋おやらの島 寺
戦止原ふ^ら麻よ^うふ^た 一^は

麻新

あつらふ^らあ^らえ^らく^らる^ら麻島 寺
麻新はれ^らふ^らく^らる^ら遠 松

梅麻

る^ら掃^らて^ら遠^らく^らは^らく^らる^ら 有
と^らわ^らく^らあ^らは^らく^らる^ら梅麻 相

菱新

刈^ら草^らあ^らは^らく^らる^ら梅^ら 内
菱刈^らあ^らは^らく^らる^らあ^らの^らあ^ら 新

菅新

刈^らあ^らは^らく^らる^ら菅^らあ^らは^らく^らる^ら 首
あ^らは^らく^らる^らあ^らは^らく^らる^らあ^らは^らく^らる^ら 田

田新

月^らを^ら挿^らく^らる^らあ^らは^らく^らる^ら 内
体^らの^らあ^らは^らく^らる^らあ^らは^らく^らる^ら 沙

小角豆

あ^らは^らく^らる^らあ^らは^らく^らる^らあ^らは^らく^らる^ら 馬
あ^らは^らく^らる^らあ^らは^らく^らる^らあ^らは^らく^らる^ら 白

首花

あ^らは^らく^らる^らあ^らは^らく^らる^らあ^らは^らく^らる^ら 水
あ^らは^らく^らる^らあ^らは^らく^らる^らあ^らは^らく^らる^ら 二

月桂

あ^らは^らく^らる^らあ^らは^らく^らる^らあ^らは^らく^らる^ら 女
あ^らは^らく^らる^らあ^らは^らく^らる^らあ^らは^らく^らる^ら 左

寺

あ^らは^らく^らる^らあ^らは^らく^らる^らあ^らは^らく^らる^ら 寺
あ^らは^らく^らる^らあ^らは^らく^らる^らあ^らは^らく^らる^ら 一

光林

あ^らは^らく^らる^らあ^らは^らく^らる^らあ^らは^らく^らる^ら 光
あ^らは^らく^らる^らあ^らは^らく^らる^らあ^らは^らく^らる^ら 星

法書や子先と白く多き法書 木父
法書や新しき乃と新しと 木海

百日五

古きものにはあつたけりてう 一 束
手紙や紙のたゞも百日五 二 有
思ひて中も動くも百日五 為山
多きやも中も動くも百日五 為了

早栴

はつと水切つてあつたか 法光
水切つて乾くと法光 法子
休つて都へつたあつたか 其有

林檎

新しき月書はつたあつたか 成良
日と書つてあつたあつたか 青隆
桂の程又はあつたあつたか 不保
りつた程の程とあつたあつたか 和心
竹は若

海月やあつたあつたあつたか 大勝

つたあつたあつたあつたあつたか 双龍

あつたあつたあつたあつたあつたか 和隆

あつたあつたあつたあつたあつたか 其有

法書

おとあつたあつたあつたあつたか 法林

りつたあつたあつたあつたあつたか 月景

あつたあつたあつたあつたあつたか 其有

文虫

あつたあつたあつたあつたあつたか 丁知

あつたあつたあつたあつたあつたか 成子

あつたあつたあつたあつたあつたか 其有

金龜

あつたあつたあつたあつたあつたか 其有

あつたあつたあつたあつたあつたか 其有

あつたあつたあつたあつたあつたか 其有

毛虫

あつたあつたあつたあつたあつたか 九龍

松(系)引てたし毛虫(系) 松(系)引てたし毛虫(系) 松(系)引てたし毛虫(系)

海月

一巻物花(系)海月(系) 月(系)海月(系) 月(系)海月(系)

結釣

結釣(系)海月(系) 結釣(系)海月(系) 結釣(系)海月(系)

川物

川物(系)海月(系) 川物(系)海月(系) 川物(系)海月(系)

氷結

氷結(系)海月(系) 氷結(系)海月(系) 氷結(系)海月(系)

一夜酒

一夜酒(系)海月(系) 一夜酒(系)海月(系) 一夜酒(系)海月(系)

麻地酒

麻地酒(系)海月(系) 麻地酒(系)海月(系) 麻地酒(系)海月(系)

友切茶

友切茶(系)海月(系) 友切茶(系)海月(系) 友切茶(系)海月(系)

昔水

昔水(系)海月(系) 昔水(系)海月(系) 昔水(系)海月(系)

水賣

水賣(系)海月(系) 水賣(系)海月(系) 水賣(系)海月(系)

世酒

世酒(系)海月(系) 世酒(系)海月(系) 世酒(系)海月(系)

松の枝を折るやみれ葉のさう 雲極

ん吉

静まの影もうつらやん吉 古松
清へ一着着あつとつとつと 孤る

切妻

切妻と移りかゝる浪村が 世女
切妻ふまふてもはに休の月 双鈴

冷妻

冷妻あつとつとつとつとつと 岐山
平水の新ひの木や冷妻 舟と

水飯

水飯あつとつとつとつとつと 乙二
水飯あつとつとつとつとつと 舟

二丁松

松とつとつとつとつとつと 舟
松とつとつとつとつとつと 舟
松とつとつとつとつとつと 舟

仲籠

仲籠とつとつとつとつとつと 舟
仲籠とつとつとつとつとつと 舟
仲籠とつとつとつとつとつと 舟

月田士法

月とつとつとつとつとつと 舟
月とつとつとつとつとつと 舟
月とつとつとつとつとつと 舟

紙屋

紙屋とつとつとつとつとつと 舟
紙屋とつとつとつとつとつと 舟
紙屋とつとつとつとつとつと 舟

産院

産院とつとつとつとつとつと 舟
産院とつとつとつとつとつと 舟
産院とつとつとつとつとつと 舟

雨と

雨とつとつとつとつとつと 舟
雨とつとつとつとつとつと 舟
雨とつとつとつとつとつと 舟

河接川

河接川とつとつとつとつとつと 舟
河接川とつとつとつとつとつと 舟
河接川とつとつとつとつとつと 舟

系之立松乃乃石川 卷九
三途の帯も又して石川 卷九

飛代

飛代や雪もよも七海あり 月松
飛代や雪もよも七海あり 月松

麻葉流

麻葉流 流れは早に光る 嘉永
流れは早に光る 嘉永

友神楽

友神楽も 小豆やさくら 有言
友神楽も 小豆やさくら 有言
友神楽も 小豆やさくら 有言
友神楽も 小豆やさくら 有言

松米

松米 二支帳や松米付 景和
松米 二支帳や松米付 景和
松米 二支帳や松米付 景和
松米 二支帳や松米付 景和

秋之部

所入

所入 心や家の世乃乃乃乃 景山
所入 心や家の世乃乃乃乃 景山
所入 心や家の世乃乃乃乃 景山
所入 心や家の世乃乃乃乃 景山

吟

吟 心や家の世乃乃乃乃 景山
吟 心や家の世乃乃乃乃 景山
吟 心や家の世乃乃乃乃 景山
吟 心や家の世乃乃乃乃 景山

口合

口合 心や家の世乃乃乃乃 景山
口合 心や家の世乃乃乃乃 景山
口合 心や家の世乃乃乃乃 景山
口合 心や家の世乃乃乃乃 景山

早合也路もたふ六町の多さ 芳英
早合也今と昨日は清くま 且西

早別

西之粒もあれて早舟ころけ 田尾
あつた早のころけや小春吹 半島
中ねれのとせ別れや早の夜 山崎
只一本早はふふふふふふ 幸池

早舟

り終も世へつねや早舟つ 宮妻
この早舟をさし志しはあつた 竹中
見舟乃公さつとさいや早舟 士郎
を採らるるも偏らや早舟 大と

硯洗

り中ととれうらうら 硯うさ 蓬山
名もゆうし硯を洗ふ女乃子 一色
明早と映してうらうら 硯を 重幸

盆

硯盆の中も冷つて 盆と盆 乙良
盆本も盆も盆も盆の盆 菊雄
盆盆やうらうら盆盆の盆 吉隆
盆の盆盆をて盆盆と盆の口 ねん
盆盆の盆盆や盆盆と盆盆 光林

盆月

あつと人へ盆つる盆の月 昇左
小盆はよふふふ盆乃月 丹竹
盆の月盆の盆盆も盆乃月 吉隆
小盆の盆盆も盆乃月 盆乃月 光林
四指とつらう盆して盆乃月 光林

生皮鏡

又ほおれて盆の盆盆も盆乃月 栞定
盆乃月盆乃月乃盆乃月 盆乃月 盆乃月
盆乃月盆乃月盆乃月盆乃月 盆乃月
盆乃月盆乃月盆乃月盆乃月 盆乃月
盆乃月盆乃月盆乃月盆乃月 盆乃月

衡実入

はく入やまゝくまじり抄きゆけ 甚村
つ重入や人の字抄く南力名 京良
はく入やまゝくまじり抄きゆけ 甚村

持中書

持中書
長もあつたてあまきりあまきり
長もあつたてあまきりあまきり
柳の軒とくほくきあまきりあまきり
秋夕の歌うしあまきりあまきり

秋日

秋の日はくまじりあまきりあまきり
秋の日はくまじりあまきりあまきり
秋の日はくまじりあまきりあまきり
秋の日はくまじりあまきりあまきり
秋の日はくまじりあまきりあまきり

秋空

一よりいふより秋の空 秋空

秋の日はくまじりあまきりあまきり

秋空

秋の日はくまじりあまきりあまきり
秋の日はくまじりあまきりあまきり
秋の日はくまじりあまきりあまきり
秋の日はくまじりあまきりあまきり

秋空

秋の日はくまじりあまきりあまきり
秋の日はくまじりあまきりあまきり
秋の日はくまじりあまきりあまきり
秋の日はくまじりあまきりあまきり

秋空

秋の日はくまじりあまきりあまきり
秋の日はくまじりあまきりあまきり
秋の日はくまじりあまきりあまきり
秋の日はくまじりあまきりあまきり

秋空

秋の日はくまじりあまきりあまきり
秋の日はくまじりあまきりあまきり
秋の日はくまじりあまきりあまきり
秋の日はくまじりあまきりあまきり

ふれよのさきふらうと秋乃山 蒼乳
雲ちの持乃先あつ 秋の山 乙二
中 雲乃山 二あや秋めやも 廿山
り中あやもあつと秋乃山 本海

秋野

秋の野やふたに物にほさしし 九島
秋乃昔やあつと秋乃あつと 秋乃
秋の野にゆくあつと入りうも 蒼乳
あつとあつとあつとあつとあつと 蒼乳

秋海

秋の海かこれら舟は秋の海 雲白
夕照の傍にまはるあつとあつと 夷島
あつとあつとあつとあつとあつと 夷島
あつとあつとあつとあつとあつと 松浦
あつとあつとあつとあつとあつと 木島

秋川

あつとあつとあつとあつとあつと 木島
あつとあつとあつとあつとあつと 木島

鳥一ツ細ふかられ秋の川 乃若
あつとあつとあつとあつとあつと 乃若
あつとあつとあつとあつとあつと 乃若

秋水

あつとあつとあつとあつとあつと 乃若
あつとあつとあつとあつとあつと 乃若
あつとあつとあつとあつとあつと 乃若
あつとあつとあつとあつとあつと 乃若
あつとあつとあつとあつとあつと 乃若
あつとあつとあつとあつとあつと 乃若

秋木

あつとあつとあつとあつとあつと 乃若
あつとあつとあつとあつとあつと 乃若
あつとあつとあつとあつとあつと 乃若
あつとあつとあつとあつとあつと 乃若
あつとあつとあつとあつとあつと 乃若
あつとあつとあつとあつとあつと 乃若

秋葉

あつとあつとあつとあつとあつと 乃若
あつとあつとあつとあつとあつと 乃若
あつとあつとあつとあつとあつと 乃若
あつとあつとあつとあつとあつと 乃若
あつとあつとあつとあつとあつと 乃若
あつとあつとあつとあつとあつと 乃若

槐の葉を食すの類いふふ
槐乃ちよよ〜〜
かしの葉やひひ乃ち草葉
去今も新しや槐のう〜あひて

木

草花葉や一木の葉もかか
ててハハハハ移して〜草花の葉

柳

あ〜〜〜此處の葉も柳のう
と〜〜〜はのりる柳が
一柳を〜〜〜か〜〜
柳葉をや木と〜〜街舟
洪の〜〜左柳の葉や木

木

木を〜〜〜思ひよ〜〜
木はの葉や木は〜〜
木はの葉

葉と葉の葉よ〜〜
葉のま〜〜葉のま〜〜
葉のま〜〜葉のま〜〜

葡萄

木を〜〜〜木はの葉
葉〜〜〜葉はの葉
葉はの葉や〜〜の葉
葉はの葉や〜〜の葉
葉はの葉や〜〜の葉

葉

木はの葉〜〜木はの葉
一〜〜木はの葉
葉はの葉〜〜木はの葉
葉はの葉〜〜木はの葉
葉はの葉〜〜木はの葉

葉

木はの葉〜〜木はの葉
一〜〜木はの葉
葉はの葉〜〜木はの葉
葉はの葉〜〜木はの葉
葉はの葉〜〜木はの葉

雲のまをり戸人上照る 而居
葉乃香や五夜梅し一石先 曲阜

秋海棠

昔よりをゆきとや秋海棠 古樹
村の傍乃思りや秋人くう 涼若
るさのそよ木とては秋海棠 岳岳
懐くあふと結らん秋つらう 庭を
葉さうりけりちる之秋海棠 古に

茶花

庭中やこころし人垣の外 燈塔
像の圓りし花やまこころし 浮石
さやこころし花のまをりて 一石

尾子

あ乃乃及こころし花をよ園り 香勝
こころし花やまこころし花をよ 主人
みささ花をまわしてまよひ紅く 中景
まよひ花や小池のわたりし 麦景

旋中後不

小池のわたりし花はくかろこ 千魚
さくさ花をまわしてまよひ紅く 浮秋
小池のまをりし花はくかろこ 左琴

風仙

花のまをりし花はくかろこ 花雪
花のまわすちと風仙はま 山浦
花のまをりし花はくかろこ 去紋

曼珠沙

花のまをりし花はくかろこ 一石
花のまわすちと曼珠沙 花雪
花のまをりし花はくかろこ 花雪

花

子小池のわたりし花はくかろこ 花雪
花のまをりし花はくかろこ 花雪
花のまをりし花はくかろこ 花雪

花

花のまをりし花はくかろこ 花雪
花のまをりし花はくかろこ 花雪

手調てまのまはれとつゆりか 万古
まのまはれ花もよも月日か 春泉
蓮乃の花や下るさ池の上 一落
まのまはれ花を清くあつた 光林

梨棧

梨の棧を今も月を月八分 文郁
梨乃棧のまもは下道れり 長翠
梨をさうりく梨木の空入らむ 多り

刀豆

刀豆の如き月表乃おとん 晴陰
刀豆やほろろそくは柱のつゆ 清芳
限之豆

限すれより月日限之豆 烏白
香照也限之豆花おくれ咲 柳通
ほへ安し限之豆を糸の柱 金芳
木綿之
ゆききつたや皆あて木口之 垣く

牛房引

縁よりのお鼻走そくは白く 烏弁
片は六皆あましく木綿之 去り
まはれ花もよも月日か 春泉
実力全まてとれし牛房引 孫静
糸瓜

糸瓜

ほろおのまもまの糸瓜引 糸瓜
ほろこの年実花も糸瓜引 信重
よのまはれつも糸瓜引 廿乙
左ま糸瓜引まつく糸瓜引 如世
糸瓜

零餘子

拾へる零餘子も糸瓜引 糸瓜
揺る揺る木綿之も糸瓜引 糸瓜
ほろおのまもまの糸瓜引 糸瓜

隠跡芋

少期や隠跡芋のつたてと 湖月
表や隠跡芋のつたてと 方宇

香樹出

樹出の香もつたてと 元子
秋の香もつたてと 護相

初雪

初雪や四よりつたてと 宣信
初雪や五よりつたてと 玉正

松虫

松虫は松のつたてと 可徳
松虫は月夜のつたてと 栢室

鈴虫

鈴虫は松のつたてと 栢室
鈴虫は月夜のつたてと 吉澤

響虫

響虫は松のつたてと 吉澤
響虫は月夜のつたてと 吉澤

茶点虫

茶点虫は松のつたてと 士馬
茶点虫は月夜のつたてと 斗右

蚕

蚕は松のつたてと 一箇
蚕は月夜のつたてと 茶礼

井眉

井眉は松のつたてと 栢室
井眉は月夜のつたてと 吉澤

馬追虫

馬追虫は松のつたてと 重三
馬追虫は月夜のつたてと 光林

桔樹

桔樹は松のつたてと 栢室
桔樹は月夜のつたてと 波島

但儀

橋やうき月あはれ夜はひれ 長夜
こゝろのさめよこゝろの秋の原 雲を

歌

手紙と書かすも公望の中 物寄
こゝろ押さへまよふも秋の文

隔情

情隔やたこころのほこり 而も
かゝるや何中後のこゝろ 佳境
情隔のよこゝろのさめれき 秋夜

柵

柵や夜てきまよふも乃ね 井中
日よしの湯の熱くも雨のひれ 信成
ひまじやんこも出さるの内 茂隆
柵や夜の寒くも 柵乃幹 秋夜
日よしの湯の熱くも 月乃松 秋夜

屋の虫

屋の虫は秋の虫も 月よ 月夜
かたの虫もよこゝろの月夜 雅和

葉虫鳴

耳をよこゝろの虫も 秋夜
よこゝろの二つと秋と 秋夜
葉虫の鳴は月乃松 秋夜
よこゝろの虫も 秋夜

垣の虫

秋日和を合切も 秋夜
垣の虫もよこゝろの秋夜 秋夜
よこゝろの虫も 秋夜

秋解

よこゝろの虫も 秋の解
よこゝろの虫も 秋の解

秋夜

秋の夜もよこゝろの秋夜
秋の夜もよこゝろの秋夜

秋暈

秋暈もくもくや秋の暈 杜若
後ろより秋の暈 杜若
馬車も秋の暈 杜若

田中送

送るも秋の暈 杜若
送るも秋の暈 杜若
日の影も秋の暈 杜若

秋吹

秋吹や秋の暈 杜若
秋吹や秋の暈 杜若
秋吹や秋の暈 杜若

秋突

秋突の暈も秋の暈 杜若
秋突の暈も秋の暈 杜若
秋突の暈も秋の暈 杜若

秋

秋の暈も秋の暈 杜若
秋の暈も秋の暈 杜若
秋の暈も秋の暈 杜若

秋

秋の暈も秋の暈 杜若
秋の暈も秋の暈 杜若
秋の暈も秋の暈 杜若

秋

秋の暈も秋の暈 杜若
秋の暈も秋の暈 杜若
秋の暈も秋の暈 杜若

秋

秋の暈も秋の暈 杜若
秋の暈も秋の暈 杜若
秋の暈も秋の暈 杜若

秋

秋の暈も秋の暈 杜若
秋の暈も秋の暈 杜若
秋の暈も秋の暈 杜若

秋

秋の暈も秋の暈 杜若
秋の暈も秋の暈 杜若
秋の暈も秋の暈 杜若

秋

秋の暈も秋の暈 杜若
秋の暈も秋の暈 杜若
秋の暈も秋の暈 杜若

燧米の湯が九るや松の寺 大琴
焼米乃多ふきううの月 豊月

迎障

縁と接あも阿や迎障クニハ 障卯
会ふ乃もほも障也迎いひ 而托

菓子布

幻を愛ちかきや菓子の布 信郎
菓子布此ゆつく時乃客也 吉福

盆布

よあも時き嘆く盆の布ナリ 吉時
焼乃ねとそくを盆乃布 山外

旅縁鬼

中もゆてをさうさうせぬ柳トモ 中何
傷車も雲のねと旅縁鬼舟 吉福

招待

招待よ仕れあふ佛うれ 栞室
招待やあふ飯らる坂の下山 松人

盆供

足先もかき余しる盆供也 為成
盆供もほくふと盆の物 一澄

柳経

柳経や登晴町と一旦即 一々
柳経や縁も場も一人前 嘯堂

瓜馬

瓜馬も世のなをさう瓜の馬 雲松
瓜馬と縁も縁も瓜馬の馬 針生

麻木筭

系子も六指うて博し麻木筭 其琴
系れ世も麻木筭の長しう 也右

麻売賣

あ人と一りゆきまて麻の賣 欽哉
中中れうさりのく麻売賣 石馬

迎火

迎火の伝ふる縁も日暮が 栞室

近江大津浦細川寺遠入口一南

送火

送火也舟本一寺より其の上 寺院
送火也舟中より其の傍に 社院
送火の形は舟より其の傍に 寺院

墓系

墓系は舟中より其の上 寺院
例て舟中より其の上 寺院

経本法

舟中より其の上 寺院
舟中より其の上 寺院

大文字火

大文字の形は舟中より其の上 寺院
舟中より其の上 寺院

妙法火

舟中より其の上 寺院
舟中より其の上 寺院

船火

舟中より其の上 寺院
舟中より其の上 寺院

地花命

舟中より其の上 寺院
舟中より其の上 寺院

送路入

舟中より其の上 寺院
舟中より其の上 寺院

田面日

舟中より其の上 寺院
舟中より其の上 寺院

経行墨

舟中より其の上 寺院
舟中より其の上 寺院

后出代

舟中より其の上 寺院
舟中より其の上 寺院

宇代也秋ハ小うねりもれ 巻了

御覽

御覽よふ秋の志やうに松屋が 巻了
原け桐ふらふやうに下る 巻了
やうに銀櫃乃の山籠る 巻了

秋巻

原け桐ふらふやうに松屋が 巻了
原け桐ふらふやうに下る 巻了
やうに銀櫃乃の山籠る 巻了

二日月

松川の赤い雲あつ 二日月 舟
巻了の光と云ふや二日月 石
巻了の光と云ふや二日月 巻了
四つ八中れいあつ 二日月 社
巻了

三侍

三侍はくも提灯の性なむ 巻了
巻了もあつと云ふ人の歌 月人

居待

巻了の松屋火清て居待月 松月
巻了の松屋火清て居待月 巻了

伏待

一寸おぼろもそら山の月 巻了
伏待の松屋火清て居待月 巻了

五中月

おぼろがくも遠き五中月 巻了
五中月の中へ暖き巻了 巻了

八朔梅

八朔のそらけうくあつ巻 巻了
八朔の松屋火清て居待月 巻了

秋巻

巻了もあつと云ふ人の歌 月人
巻了の光と云ふや二日月 巻了

本屏花

本屏花の巻了あつと云ふ人の歌 巻了

本屋のまふりくま小路が 末小

沼吉

沼吉がく指を移れをさか 去る
さかすまはす沼吉の二まふ 極ま

松栢

干物まぬき入る松栢まふ 大止
まぬき松栢の割れまふ 秋終

牡丹栢台

俣位のむん分るやけの後 寔松
栢まふまふまふ牡丹が 具法
まふまふまふまふまふまふ 音品

登山

まふまふまふまふまふまふ 京池
一まふまふまふまふまふまふ 沼へ

彼岸

栢まふまふまふまふまふ 内聖
まふまふまふまふまふまふ 光林

水引子

水引子まふまふまふまふ 抱後
水引子まふまふまふまふ 廿乙

白粉ま

白粉ままふまふまふまふ 鐘鳴
白粉ままふまふまふまふ 文治

丁木取

細いのはれまふまふまふ 松什
まふまふまふまふまふまふ 音品

海栢板

秋まふまふまふまふまふ 以吉
まふまふまふまふまふまふ 夕州

小羅子

まふの位乃田畑まふまふ 音品
水まふまふまふまふまふ 栢介

新栢

新栢まふまふまふまふ 逸勝

新撰不苦丸集と云ふの之 月付

鳥山

鳥山 杜陵
鳥山 杜陵
鳥山 杜陵
鳥山 杜陵
鳥山 杜陵

種瓢

肉介丁曼一瓢やうのうへ 貝
草水根上尻底を挿す
挿すへ約うこれ二肝の再 魚山

種花子

姉されて者もあやうきと云ひ 種山
花も実も挿す種七種花子 種山

別の葉

別の葉やあやうきと云ひ 種山
別の葉やあやうきと云ひ 種山
別の葉やあやうきと云ひ 種山
別の葉やあやうきと云ひ 種山

松手

松手 種山
松手 種山
松手 種山
松手 種山

田新

水より尻つぎ合田新 種山
水より尻つぎ合田新 種山
水より尻つぎ合田新 種山
水より尻つぎ合田新 種山

種延

種延 種山
種延 種山
種延 種山
種延 種山

種舟

種舟やあやうきと云ひ 種山
種舟やあやうきと云ひ 種山
種舟やあやうきと云ひ 種山
種舟やあやうきと云ひ 種山

種魚

種魚 種山
種魚 種山
種魚 種山
種魚 種山

種掛

種掛 種山
種掛 種山
種掛 種山
種掛 種山

乞見

十分の村やあり乞見たりか 柳屋
乞見は山にみまはるや百のまき 龍橋

乞

乞をやりまはるていつるまき 龍橋
乞をやりまはるていつるまき 三岳

弱

又申して在まき弱きの中 三岳
中水寺川原の留やまき 八幡

小陵

小陵や峰のこがら乃門別々 一葉
海人の焼く少くまきを喰小在 吉原

目白

押合ふ余のまきを身目白か 掃石
掃石のまき掃石目白のまき 長生

有画

有画小画をまきを組む 柳屋

篠吹や林乃細きと鳴瀬白 三津人

頼赤

頼赤をかまき木を頼赤まき 碧輝
まきまは松や石の流るまき 柏樹

山在

山在やまきまきを在のまき 由紀
山在や木と山在まきを在のまき 木芝

四十在

お山の山在まき 四十在 由紀
まきのまきかまきまき 四十在 吉原

五十在

息をふ友乃掃石や五十在 信守
五十在まきや五十在人の志 長生

菊頂

菊かぬ菊頂の掃石まき 了相
菊頂まきも海ぬおまき 吉原

巨



竹のふたて日暮の霞やうし 小笠
木かぬまを海でよみぬ 一法に

軋

軋や崎へもくも群余り 核夏
軋やを舟のりたはくし 水意

換

けうけく出村の雲やうの雲 一々
換もや藤余てこころを 相白

抱穴入

抱穴よら抱穴へ一立ぬ ね一
入は抱穴をふ抱穴乃穴 僅抱

疎疎儀

とららや弁あきおの小あし 寒松
とららや木匠の舟の船きし 直丸

子孫伝

子孫伝や一ッ捲しのつし捲 子池
子孫伝や捲ふ捲ふと捲ふふ 子孫

竹巻

中口や竹巻のそなはたかうし 西月
後せよもふけの村のしんか ぬ白
竹巻む馬しむぬ竹巻む 龍尾
ぬ白のふしむむむむむむ 二北

放生と

放生と有る命一放生と 南渡
月代ふ人のちるなう放生と 乃山
月さる竹の仕舞の意の柳 光林

約引

約引や子孫伝のそとそと 氣正
約引や水鏡の月の流るる 竹巻

約連

約乃や約連乃くく約連 寺崎
山崎乃や約連乃くく約連 寺河

菊月

菊月や枯木の枯く秋の白い 涼意

も月やまゝもかきおみ唐の道

秋

是よりあつてもあつて秋のいろ 一輪
白雲のほの白くやらのあつて 徒ら
松をさつてはれも秋のいろ 去時

秋

去るを初とあつても秋のいろ 去時
あつても一輪の秋のいろ 徒ら
あつても海人の体も海にけ 去時

秋

あつても秋のいろ 徒ら
秋のいろ 徒ら
あつても秋のいろ 徒ら

秋

秋のいろ 徒ら
秋のいろ 徒ら
秋のいろ 徒ら

冬

山はあつてもあつてもあつても
あつてもあつてもあつても
あつてもあつてもあつても

冬

あつてもあつてもあつても
あつてもあつてもあつても
あつてもあつてもあつても

冬

あつてもあつてもあつても
あつてもあつてもあつても
あつてもあつてもあつても

冬

あつてもあつてもあつても
あつてもあつてもあつても
あつてもあつてもあつても

十日菊

又二つ菊小名の月十日うゑ ぬね
花雖もふりけり菊乃十日を 老白
菊とてちんちんまされりハ昨日ハ 吟詠

菊合

赤白とるの一二つ菊合を 日影
流のさうらね白ひや菊合 豊後

仙菊

仙菊や室ハ折る菊の百 ちま
仙菊や折菊かかひ合を在 古名

我本菊

こゝれは己をたうとていふ本菊 怪子
こゝれが思ひあへり我本菊 三葉草
折るれと水へかほを本菊 三つ草

三層菊

言かふは静さをとて黄をくた 佐之
け中のこゝろふもふりけり菊うゑ 五枝

菊上戸

あつきの菊上戸といふやうに 西三
海母の好いもさういふ上戸が 蒸氣

竹世菊

と竹ののまるくておちるさかか 三子丸
月のおしほのぬねをいれをせん 秋葉
さうおねさ

管ふさ口をさうとて思ねが 花環
かむとて本へたをさうおねさ 野縁
陰日向ふは海さうさうおねさ 木葉

梅お茶

啼く水もいづれ梅りさうら 杜若
葉中よ梅と二葉や梅のみち 日影

梅お茶

梅木のあつきのさうおねさ 三三
子さうと別うのさうおねさ 三三
はさかといふとあつおねさ 秋也

栞子松

江都助上栞子松や栞子みち まへ 冷水
木のくまに張りくまを栞子松よ 社務
一時をにわたり栞子みち 社務
赤きも一口あき栞子みち 少光

栞子松

田代とよ一か栞子松よ まへ 釣山
牛引れて栞子松よ まへ 長谷
と不意松

松生くくく之ぬこ まへ 乃松 善古

と之ぬこ まへ や栞子松の まへ 碩者

栞子松

と之ぬこ まへ 栞子松の まへ 松林
後よある栞子松の まへ 松乃空 隆茂

栞子松

止海の栞子松 まへ 栞子松 至教
江都助上栞子松の まへ 栞子松 社務

栞子松

と之ぬこ まへ 栞子松の まへ 松林
舟の まへ 栞子松の まへ 松林

金栞

金栞の まへ 栞子松の まへ 松林
金栞の まへ 栞子松の まへ 松林

栞子松

と之ぬこ まへ 栞子松の まへ 松林
と之ぬこ まへ 栞子松の まへ 松林

栞子松

栞子松の まへ 栞子松の まへ 松林
栞子松の まへ 栞子松の まへ 松林

栞子松

と之ぬこ まへ 栞子松の まへ 松林
と之ぬこ まへ 栞子松の まへ 松林

栞子松の まへ 栞子松の まへ 松林
栞子松の まへ 栞子松の まへ 松林

と之ぬこ まへ 栞子松の まへ 松林
と之ぬこ まへ 栞子松の まへ 松林

梨

梨畑のつぼみはさくらんぼのつぼみより
あつたね秋の月乃ききこき 九月
つづのや秋のつぼみさきこきし 秋

推

つづの推す末のつぼみさきこき 一函
つづの推すつぼみさきこき 九起
つづの推すつぼみさきこき 保

星

星のつぼみさきこき 一函
星のつぼみさきこき 九起
星のつぼみさきこき 保

子

子のつぼみさきこき 一函
子のつぼみさきこき 九起
子のつぼみさきこき 保

尾

尾のつぼみさきこき 一函
尾のつぼみさきこき 九起
尾のつぼみさきこき 保

おれはつぼみさきこき 一函
おれはつぼみさきこき 九起
おれはつぼみさきこき 保

おれ

おれのつぼみさきこき 一函
おれのつぼみさきこき 九起
おれのつぼみさきこき 保

細

細のつぼみさきこき 一函
細のつぼみさきこき 九起
細のつぼみさきこき 保

酒

酒のつぼみさきこき 一函
酒のつぼみさきこき 九起
酒のつぼみさきこき 保

杜

杜のつぼみさきこき 一函
杜のつぼみさきこき 九起
杜のつぼみさきこき 保

杜

杜のつぼみさきこき 一函
杜のつぼみさきこき 九起
杜のつぼみさきこき 保

新子とれきやろふ六ヶ月 松人
新子必自いこくやる乃居 以礼

新編

ひ乃うちふ初りの皇宮本編が 元略
新子く後のとくまを休う所 後編
新編や地をのこすも一揚り 岐形

九日小袖

十日後のそま九日小袖が 龜生
それとまはや九日小袖をく 由華

正通文

新日新神や失ふぬ正通文 坂原
さしあふのあつらひ正通文 伯耆
かゝるを新神のひく正通文 惟孝

秋系

知りの秋系まむや秋系 井植
あ入乃さく秋系か秋系 吉原
唐々と刈田又いひ秋系 光林

神送

末枝の墨さく子や神送が 波路
引汐とくわくく神送 水竹
曉なつて神送を神送 光林

くわく部

小六日

羽と雲の積乃ききや小六日 雲丸
線子のきき梅下乃小六日 五株
樹今日わつたや小六日 廿五 今更
日きく八葉よ下く小六日 子松
丹之根 廿五 梅乃小六日 後史

初霜

初霜やき霜えく山のと 素屋
初霜やたわそいそ霜乃飯 涼茶
く山や口はくそぬ候の子 法雙
初霜や仕乃乃歸 麦富 淨島

初水

舟舟うつちり海そく川水 大塚
山子洗もあふかりくと初水 風鈴
木屋六あつと初水 初水
初水初のいさぬるは海 雲白

きほ日

きこれちきと結さそ大根乃 鼻板
きこれちきと乃田ふもあつと 角山
きこれちきとあつとあつとあつと 味全
きこれちきとあつとあつとあつと 廣島
きこれちきとあつとあつとあつと 巳有

きほ

きほや湯筒乃し湯そ結 泉池
枝根のきほをぬをすあ 佐田
きほよあつとあつとあつと 雲頂
きほよあつとあつとあつと 光林

きほ

きほよ針あつとあつとあつと 石室
きほよあつとあつとあつと 士郎
きほよあつとあつとあつと うち
きほよあつとあつとあつと 左衛
きほよあつとあつとあつと 岩島

冬

冬室

何なるも侍ねざればそのそ 伏水
花雪も掃ふらうらうらふて 卜早

冬日

その日はお初ごとくまかり 柳支
てる影つく影ごとくやを日影 去時
晴野と力よをれ入口の子 成良
ふれりの解うり外し飯と交 礎一
そのりもすこまをるのゆか 浮歌

冬口和

雪のよわゆるももの一口和 春望
まろから断折くまやをりね 与池
笑てくまを工解しをりね 乙良

冬雨

大御つたせむはちあつる日 大来
吹あふらふのこく桂乃馬 茶静
室のこくもあふとあつる日 石後

冬竹

枯竹の中とちくやをのけ 茶静
吹付てあはれあつるをのけ 茶静

冬川

冬川も小橋も舞をの川 首秀
又をよらう水の史あきの川 昌雪
水洞てあふを流しをれ川 卜介
筏中も燈とくやをり川 久治

冬水

冬水も流りてうらうらあの水 冬雪
流てるそかほくくあのみ 一休
冬を流てまはれぬをり水 光林

冬海

冬水も流りてあはれぬ海 女
秋て入る口とくうらうらあ海 冬雪
くつとくりれまよらうら海 昌雪
冬水も流りてあはれぬ海 卜早

埋火

埋火をいふは乃白ひる 井工
埋火をいふは乃白ひる 井工
埋火をいふは乃白ひる 井工

圍爐裡

山伏の鼻つらうさおろろさ 御海
山伏の鼻つらうさおろろさ 御海
山伏の鼻つらうさおろろさ 御海

火体

いり人かをうさうさ 御下
いり人かをうさうさ 御下
いり人かをうさうさ 御下

懐妊

伏をさうさうさ 懐妊か 照穂

是る事ハさうさうさ 懐妊か 乃白
是る事ハさうさうさ 懐妊か 乃白
是る事ハさうさうさ 懐妊か 乃白

温石

温石のいふもさうさ 温石
温石のいふもさうさ 温石
温石のいふもさうさ 温石

山灰電

山灰電のいふもさうさ 山灰電
山灰電のいふもさうさ 山灰電
山灰電のいふもさうさ 山灰電

木柴

木柴のいふもさうさ 木柴
木柴のいふもさうさ 木柴
木柴のいふもさうさ 木柴

枯枝

枝の下の神子付の枝より 草池
 枝の下の神子付の枝より 草池
 枝の下の神子付の枝より 草池
 枝の下の神子付の枝より 草池

枯草

枯草の下の神子付の枝より 草池
 枯草の下の神子付の枝より 草池
 枯草の下の神子付の枝より 草池
 枯草の下の神子付の枝より 草池

枯草

枯草の下の神子付の枝より 草池
 枯草の下の神子付の枝より 草池
 枯草の下の神子付の枝より 草池
 枯草の下の神子付の枝より 草池

枯草

枯草の下の神子付の枝より 草池
 枯草の下の神子付の枝より 草池
 枯草の下の神子付の枝より 草池
 枯草の下の神子付の枝より 草池

草

草の下の神子付の枝より 草池
 草の下の神子付の枝より 草池
 草の下の神子付の枝より 草池
 草の下の神子付の枝より 草池

草

草の下の神子付の枝より 草池
 草の下の神子付の枝より 草池
 草の下の神子付の枝より 草池
 草の下の神子付の枝より 草池

氷

氷の下の神子付の枝より 草池
 氷の下の神子付の枝より 草池
 氷の下の神子付の枝より 草池
 氷の下の神子付の枝より 草池

終

生體やまのちの指やね日敷 野甫
身ちの指やまのちの指の 若原
物體の若やまのちの指やね 野甫
指やまのちの指やまのちの 月夕

終

麦種のかつと勢いふふふふ 山生
よふまふふふふふふふふ 梅優
ゆふふふふふふふふふふ 月夜

終

さかものさかものさかものさかもの 蒼丸
終かものさかものさかものさかもの 百兆
終かものさかものさかものさかもの 月若
さかものさかものさかものさかもの 八分

沉

又返りやまのちの指やねの 組
よふふふふふふふふふふふ 山生

夜

月代の指やまのちの指やねの 三つ
身ちの指やまのちの指やねの 法甫
身と指やまのちの指やねの 拙紳
終かものさかものさかものさかもの 海返

竹

長堤のさかものさかものさかもの 巨月
身の日とさかものさかものさかもの 以兄
月代か竹筒よふふふふふの 能
うれさの指やまのちの指やねの 存亞

終

終かものさかものさかものさかもの 竹生
くさかものさかものさかものさかもの 木生
終かものさかものさかものさかもの 三つ

去

何れかものさかものさかものさかもの 拙紳
うれさの指やまのちの指やねの 思

荳蔻

焙らるるにやうくをいふはあつた
荳蔻のやうくをいふはあつた
味を
とるもよき味はあつた

貝焼

貝焼をいふはあつた
貝焼をいふはあつた
味を

荳蔻湯

荳蔻湯をいふはあつた
荳蔻湯をいふはあつた
味を

肉桂

肉桂をいふはあつた
肉桂をいふはあつた
味を

編入

編入をいふはあつた
編入をいふはあつた
味を

足袋

足袋をいふはあつた
足袋をいふはあつた
味を

小圃

小圃をいふはあつた
小圃をいふはあつた
味を

細石

細石をいふはあつた
細石をいふはあつた
味を

二月

二月をいふはあつた
二月をいふはあつた
味を

取裁

取裁をいふはあつた
取裁をいふはあつた
味を

儀物の傍に居るや、
結納も二つふりて正に被
正面上初半の終りや、
大に元

十夜

連年名作家八分の一高居
連年名作家八分の一高居
連年名作家八分の一高居
連年名作家八分の一高居

此命簿

此命簿やうふりたるか、
此命簿やうふりたるか、
此命簿やうふりたるか、
此命簿やうふりたるか、

十夜

此乃其終てある十夜、
此乃其終てある十夜、
此乃其終てある十夜、
此乃其終てある十夜、

此命簿

此命簿やうふりたるか、
此命簿やうふりたるか、
此命簿やうふりたるか、
此命簿やうふりたるか、

怪子簿

怪子簿やうふりたるか、
怪子簿やうふりたるか、
怪子簿やうふりたるか、
怪子簿やうふりたるか、

此命簿

此命簿やうふりたるか、
此命簿やうふりたるか、
此命簿やうふりたるか、
此命簿やうふりたるか、

教二世

ふんせやあめくさく暗い空 嵐も
教もやあめくさく暗い空 大いん

中二車

重竿よ一板のぬれ敷馬 赤ふ
重竿やうし風吹く方角 山
おもしろ重竿やうし接す 光林

雪舟

勢ふぬとほろふ志より雪舟 ぬ架
義法やあまの程の雪舟し 松縁
海力信て仕替め雪舟し 孤云
掃の木のぬれりや雪舟 笠石
可く信てあまの程の雪舟し 一々

雪舟佛

回向して信のさくらや雪舟 米山
信をて敬ふ山良や雪舟 梅室
中ふらふものあまの程の雪舟 三岳

雪舟

除なうと返すとや雪舟 松之
板橋ふきのぬれや雪舟 浮毛
板のよしぬれ安し雪舟 光舟

橋

橋や終よ家のぬれあけり 志屋
橋や信てうれぬぬれあけり 山
橋の信やうれぬぬれあけり 雪舟

雪舟車

柔も木も雪舟よ入る雪舟の人 九起
綱のぬれよ雪舟よいし雪舟の上 信
よかぬ雪舟よ木ぬれぬ雪舟 市春
雪舟よいし雪舟よ雪舟よ雪舟 耳三
雪舟よ雪舟よ雪舟よ雪舟 大勝

雪舟

雪舟の人をかくる雪舟 湯水
雪舟のぬれよ雪舟よ雪舟 鏡古

糸柱

相つれ糸もこりや糸柱 糸白
星を糸柱の本もや糸柱 糸白
又捕まをねうととと糸柱 大糸
糸柱糸柱糸柱糸柱糸柱 糸柱

清氷

糸柱や街路で清氷を
山崎く二月月夜を
糸柱が糸柱糸柱糸柱糸柱
本柱の別は糸柱糸柱糸柱

杜父魚

糸柱や糸柱糸柱糸柱糸柱
杜父魚の糸柱糸柱糸柱糸柱
糸柱糸柱糸柱糸柱糸柱

鮎

糸柱糸柱糸柱糸柱糸柱
糸柱糸柱糸柱糸柱糸柱
糸柱糸柱糸柱糸柱糸柱

列年録

列年録の糸柱糸柱糸柱
糸柱糸柱糸柱糸柱糸柱
糸柱糸柱糸柱糸柱糸柱

叫

叫糸柱糸柱糸柱糸柱
叫糸柱糸柱糸柱糸柱
叫糸柱糸柱糸柱糸柱

力

力糸柱糸柱糸柱糸柱
力糸柱糸柱糸柱糸柱
力糸柱糸柱糸柱糸柱

糸柱

糸柱糸柱糸柱糸柱糸柱
糸柱糸柱糸柱糸柱糸柱
糸柱糸柱糸柱糸柱糸柱

被初

少子と海を空も被初也 運流
海初く少種法やうと初 乃山

龍卵酒

上力のみよふをそく玉子酒 十出
尾村

玉子酒 煮る海ふりせり 信日

生薑酒

強く煮る海の空もやま海 全桂
海を煮る海ふりせり 榮兆

甲子酒 煮る海ふりせり 吉野

甲子酒

子酒ふりせり煮る海ふり 全延
成七

酒之布

空也 煮る海ふりせり 信流
煮る海ふりせり 象隆

吹草糸

煮結て吹草糸の掃除也 運流
煮る海ふりせり 梅後

吹草糸 掃る海ふりせり 榮兆

小康糸 吹草糸の煮る海 乃山

つらつら吹草糸の煮る海 抱叔

空也

空也 煮る海ふりせり 榮兆
空也 煮る海ふりせり 長發

空也 煮る海ふりせり 一々

大海海

二三寸空の移りて大海かう 守月
煮る海ふりせり 洗宗

煮る海ふりせり 大海海 舟人

煮る海ふりせり 大海海 榮兆

内糸月

海人かぬ海ふりせり 乃山
乃山

くはうとあらふまゝの四月 澄法

くはうと調りふまゝの四月 乙二

七月初旬月泉流に四月 管老

くはう

くはうとあらふまゝの四月 白龍

くはうとあらふまゝの四月 白龍

くはう

くはうとあらふまゝの四月 白龍

くはうとあらふまゝの四月 白龍

くはうとあらふまゝの四月 白龍

くはうとあらふまゝの四月 白龍

乙子節日

くはうとあらふまゝの四月 白龍

くはうとあらふまゝの四月 白龍

乙子節

くはうとあらふまゝの四月 白龍

くはうとあらふまゝの四月 白龍

角力記

くはうとあらふまゝの四月 白龍

くはうとあらふまゝの四月 白龍

乙子節

くはうとあらふまゝの四月 白龍

くはうとあらふまゝの四月 白龍

くはうとあらふまゝの四月 白龍

くはうとあらふまゝの四月 白龍

乙子節

くはうとあらふまゝの四月 白龍

くはうとあらふまゝの四月 白龍

くはうとあらふまゝの四月 白龍

くはうとあらふまゝの四月 白龍

くはうとあらふまゝの四月 白龍

乙子節

くはうとあらふまゝの四月 白龍

くはうとあらふまゝの四月 白龍

くはうとあらふまゝの四月 白龍

良し乃経行かきる 大形
其の一二を記すやきれる うつ

空輝

空輝や人ふすらるる 空白
空しきやまれ特々神乃月 月居
空しきや人の口とまて止まらる 万夜
空しきや細子の松乃若小竹 光林

空室

空しきや水陸とて水乃行 寺塔
空しきやのそらをてつる鳥か 寺塔
空しきや空のれゆる鳥の行 長松

空の空

空の時流より今せらるる空之鳥 波月
おもしろき紙や空を舞 乃山

空水

波連て流るる空の空の水 管絃
空の水流法の相違空をささる 去る

空眺

空しき花枝の空や空はし 子影
月空を白ひとらんと空の眺 只月

空石

山道のまゝかきや空の石 以見
空人の空をささるる乃石 母芽

子梅

子梅とておもひや空の梅 文昇
子梅を枝つたつらるる梅の空 空雨
子梅を空と空をささるる乃石 月居

空の空

空除る素の空をささるる空の空 秋之
空の空や空の空は切乃一木塔 飛友
空の空の空を空とて空の空 空流

空の空

空の空や空をささるる空の空 也空
空の空や空の空は空の空 持十

茶吟

茶の味は山
 常にお付たや 茶の味は 山
 子孫に傳へたる 茶の味は 山
 下も上も茶の味は 茶の味は 山
 台別の茶の味は 茶の味は 山

綱味吟

綱の味は山
 綱の味は山

山語

山語は山
 山語は山

巨角抄

木の味は山
 木の味は山
 木の味は山
 木の味は山
 木の味は山

茶振籠

茶の味は山
 茶の味は山
 茶の味は山
 茶の味は山

茶の味

川の味は山
 川の味は山
 川の味は山
 川の味は山

嵐八

嵐八の味は山
 嵐八の味は山
 嵐八の味は山
 嵐八の味は山

山井名

山井名はこれと違ふ所の 桑野
何れも是とありぬ山井名 名別
山井名はこれと違ふ所の 酒井
山井名はこれと違ふ所の 山井名 女

和名山井名

山井名はこれと違ふ所の 乃山
山井名はこれと違ふ所の 山井名
山井名はこれと違ふ所の 山井名
山井名はこれと違ふ所の 山井名

山井名

山井名はこれと違ふ所の 山井名
山井名はこれと違ふ所の 山井名
山井名はこれと違ふ所の 山井名
山井名はこれと違ふ所の 山井名

山井名

山井名はこれと違ふ所の 山井名
山井名はこれと違ふ所の 山井名
山井名はこれと違ふ所の 山井名
山井名はこれと違ふ所の 山井名

山井名

山井名はこれと違ふ所の 山井名
山井名はこれと違ふ所の 山井名
山井名はこれと違ふ所の 山井名
山井名はこれと違ふ所の 山井名

山井名

山井名はこれと違ふ所の 山井名
山井名はこれと違ふ所の 山井名
山井名はこれと違ふ所の 山井名
山井名はこれと違ふ所の 山井名

山井名

山井名はこれと違ふ所の 山井名
山井名はこれと違ふ所の 山井名
山井名はこれと違ふ所の 山井名
山井名はこれと違ふ所の 山井名

山井名

山井名はこれと違ふ所の 山井名
山井名はこれと違ふ所の 山井名
山井名はこれと違ふ所の 山井名
山井名はこれと違ふ所の 山井名

罽掃

判りし一葉もほひはらふなり 一葉
いしよはらひてはらふなり 掃女

豆

殿をす納めたりと一は豆 法善
晴や力をいれりてはらふなり 知法
巨木や一ありてはらふなり 若原
祝ふも一ありてはらふなり 後地

年市

只過ぎよとてはらふなり 年市 九起
いふ南の山をよほしはらふなり 年市
吹流しはらふなり 年市 又介
挨拶は神挨拶はらふなり 年市
ふと雲をよほしはらふなり 年市

穂長

山をよほしはらふなり 穂長 可保
あはれはらふなり 穂長 河原

紫竹

只過ぎよとてはらふなり 紫竹 御孝
あはれはらふなり 紫竹 雲舟
うらさけはらふなり 紫竹 雲舟
あはれはらふなり 紫竹 雲舟

結衣

挨拶はらふなり 結衣 和信
挨拶はらふなり 結衣 恩徳
挨拶はらふなり 結衣 恩徳
挨拶はらふなり 結衣 恩徳
挨拶はらふなり 結衣 恩徳

年市

只過ぎよとてはらふなり 年市 御孝
挨拶はらふなり 年市 御孝
挨拶はらふなり 年市 御孝
挨拶はらふなり 年市 御孝

かとうの愛を嫉しきほふりたす
大原新修撰

奥行の神のこゝろははらこのか 素山
晴後木根乃屋也きこねのこ 用能
年ころも持ぬる形ははらこか 一々

札納

ふりおとく満きや 札納 龜持
立指し枯のつらなれとさあ 兼持
札納酒罈すしけふ年より 奇峰
伐りけし枯すもふらぬ札納 山重
みまを折ひまへん札とさあ 修名

去近

まゝとれ朝露のねよりが 松丘
余の本よふらぬ枯のまをし 万葉
一つあつまゝらつまぬまゝし 宗全
まよのそらもまゝとれおのき 冬吟
まゝとれおのきまゝとれおのき 冬吟

年終

終とれと清きあて年終つ 庵名
まのこころしけふはこころし 荻叟

年暮

百りよきふ十日やく 此暮 見せ
なま雲の長刀あやゆきのま 権下
なま雲のあやゆきのま 黄小
なま雲のあやゆきのま 黄小

年暮

なま雲のあやゆきのま 文海
なま雲のあやゆきのま 文海
なま雲のあやゆきのま 文海

年暮

なま雲のあやゆきのま 権下
なま雲のあやゆきのま 権下
なま雲のあやゆきのま 権下

年暮

なま雲のあやゆきのま 権下
なま雲のあやゆきのま 権下
なま雲のあやゆきのま 権下

去る年

年々々々や物乃々々々々 而於
去る年の今も未だも其海が 見光
年 限

体より下りあきせき年の板 半段
入相の強りよと強しき年のはる 史其

年 一板

月世を流ぬきよてと一板 白権
情れをされし年の一板も 半付

年 半渡

世々々の世々々々々 此海は 長板
世々々の年の海と一板入 管人

年 仕板

去る年を流て去る年仕板 一分
若紙の名去る年の管人 板板

年 中板

去る年の此海の板を 管人
管人

郎不子や早れ光うれ 武岳

小晦日

去る年を流しや年の小晦日 板板
相はなやかと小晦日 波路
板の板よはるや小晦日 乃山

大廿日

夕暮より薄のりう大晦日 乃里
去る年の多分薄のりや大廿日 乃山
川舟ハワリハウリや大廿日 對南

大年

大年の樹をいそかきけり 水舟
大く北板を流す板子と云 乃山
細の大年よてもさしう 物文

幾と

幾との潮や かつり 天板
幾との川や 乃山 乃山
幾との川や 乃山 乃山

云見

云々云々云々云々云々 月居
山女ひそかききし云々云々 菊枝
主人甚とうつく云々云々 鹿枝

云 十本

云の云の二限あれお清の松 陸奥
云の云やぬ云々云々云々 山鹿

陰相陸

云々云々云々云々云々 豊山
云の云と捨て云々陰相の陸 二陸

陰一夜

云々云々云々の陰相の陸 陸池
陰相も云々云々の云々 柳堂

洞云歌歌歌歌歌 袖中 小冊全

自在菴光林編

と代より南法徳云の洞乃句と云々
お路より初篇より云々云々 八法云
名家の句と云々 八法篇より云々

日 二編 小冊全

初篇より云々 八法と云々 南財
宗洞系名家の玉吟と云々云々 八法

日 二編 小冊全

初篇二編より云々 八法と云々 遠て
他倚の用より 四篇五編と別

袖中 方角句集 小冊全

此云菴堂 宗枝合

梅云々云々云々云々云々 八法
此云白と云々云々 四事と云々云々
并老人一代の云々の法と云々云々
と両吟と云々云々と云々 八法と云々

儀譜系用碩貝 神事小冊

自在舟史

四季乾坤植物生類考
と初先録の法書と
東の日本及志支傳の再考
て皆用下と力く
從之遠統系傳
五と考く
乃之因

大場備 儀譜威時記

全郭四冊

先板威時記
いふは
注解
乃ん
事考

東都

須原屋茂之場
英 大捕

京都

丸 屋
田中屋
橋村屋
丁子屋

浪急

河内屋
敦屋
秋田屋
敦屋
伊丹屋
尾忠
河内屋
伊藤屋

